

南大阪看護専門学校

情報開示

ページ	書類
2	2020年度 確認申請書 [様式第2号の1-②]
3	2020年度 確認申請書 [様式第2号の2-②]
4-5	2020年度 確認申請書 [様式第2号の3]
6-8	2020年度 確認申請書 [様式第2号の4-②]
9	令和元年度(2019年)・学校関係者評価【要旨】
10-12	学校評価実施規程
13	自己評価者および学校関係者評価者における守秘義務規程
14	学校関係者評価委員
15	客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料
16	卒業の認定
17-21	2020年度 1年次開講科目講師教科書一覧表
22-26	2020年度 2年次開講科目講師教科書一覧表
27-28	2020年度 3年次開講科目講師教科書一覧表
29-58	2020年度 シラバス 1年次
59-92	2020年度 シラバス 2年次
93-102	2020年度 シラバス 3年次
103	2019年度 確認申請書 [様式第2号の1-②]
104	2019年度 確認申請書 [様式第2号の2-②]
105-106	2019年度 確認申請書 [様式第2号の3]
107-109	2019年度 確認申請書 [様式第2号の4-②]

20201006

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	南大阪看護専門学校
設置者名	社会医療法人 景岳会

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
看護専門課程（3年課程）	看護学科	夜・通信	2580 時間	240 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校HP(http://www.minamiosaka-kango.com/images/pdf/information_disclosure.pdf)に掲載
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	南大阪看護専門学校
設置者名	社会医療法人 景岳会

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	学校関係者評価委員会
役割	<p>学校関係者評価委員会【※】（委員長）は、自己評価委員会（南大阪看護専門学校に籍を置く教職員5人以内を委員（委員長：副学校長）として設置）の自己評価結果ほかに基づき、学校関係者評価委員会による評価をまとめ、教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めている。</p> <p>※「南大阪看護専門学校 学校評価実施規程」に基づき設置 委員会構成（学校長委嘱）〔規程第12条第1項〕：関連業界等関係者4名、卒業生1名、地域代表1名、その他学校長が必要と認める者 委員任期〔規程第12条第2項〕：2年（再任を妨げない） 評価の活用〔規程第16条〕：委員長は評価の結果を活用し、教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない</p>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
南大阪病院 副院長	2020(令和2)年 4月1日	非常勤講師〔病理生理学Ⅰ〕 2010(平成22)年11月～現在
南大阪病院 看護部長	2022(令和4)年 3月31日	非常勤講師〔看護管理〕 2010(平成22)年6月～現在
社会医療法人景岳会 本部部长		
社会福祉法人白寿会 職員	※「南大阪看護専門学校 学校評価実施規程」第12条（関係者委員会の構成）第2項において、“委員の任期は2年、再任は妨げない”と規定	外部非常勤講師 ※①～③参照
南大阪看護専門学校 卒業生		非常勤講師〔基礎看護技術論Ⅰ〕 2013(平成25)年5月～現在
地域代表		
<p>（備考） 全6名とも本校・学校関係者評価委員会設置時（2016（平成28）年11月）からの委員である。</p>		

※① [在宅看護方法論Ⅱ] 2011（平成23）年10月～2013（平成25）年3月

② [老年看護学方法論Ⅱ] 2013（平成25）年4月～2016（平成28）年3月

③ [老年看護学方法論Ⅰ] 2016（平成28）年4月～現在

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	南大阪看護専門学校
設置者名	社会医療法人 景岳会

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年8月までに次年度の授業計画を作成し、実習施設への依頼を行っている。また、12月に授業計画(シラバス)を作成している。</p> <p>授業計画(シラバス)は外部への公表として本校HPに掲載。</p> <p>成績の評価については、本校「学則」第21条(単位の認定)をはじめ、「学則施行細則」第4章学習評価・卒業(第10条(成績の評価)、第11条(入学前の既習単位の認定)、第12条(卒業の認定))、「履修規程※」に基づき評価(A;100~80点、B;79~70点、C;69~60点、D;59点以下)を行い、単位認定(C以上)、卒業認定を行っている。</p> <p>なお、「学則」、「学則施行細則」、「履修規程」は『学生便覧』に掲載し、全学生に配布。</p> <p>※「履修規程」(下記3章構成)において、細部を規定</p> <p>第1章 科目単位の修得: 第2条(科目認定の条件)、第3条(試験の時期)、第4条(試験の方法)、第5条(試験時間)、第6条(不正行為の禁止)、第7条(科目の学習成績評価)、第8条(再試験)、第9条(追試験)、第10条(単位認定試験の評価及び単位の認定)、第11条(再履修)</p> <p>第2章 臨地実習単位の修得について: 第12条(臨地実習の先修条件)、第13条(臨地実習評価の対象)、第14条(臨地実習評価の方法)、第15条(再実習、補習実習について)、第16条(臨地実習の評価及び単位の認定)、第17条(再履修)</p> <p>第3章 学習の評価: 第18条(学習の評価)</p>	
授業計画書の公表方法	本校HP (http://www.minamiosaka-kango.com/images/pdf/information_disclosure.pdf) に掲載
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>まず、各学年ともに年度初めに「目標管理表」を用いて学生自身に目標を設定させることにより、学年担任(主・副)が個々の学生の年度当初における学修意欲を把握している。また、教科外活動においてはレポート提出やアンケートを取ることで、取組み状況や課題を把握し、これらについて教務会議において報告・情報共有している。</p> <p>そのうえで、各科目の学修状況や試験結果等を基に学年担任(主・副)が定期的に学生と面談を行い、それぞれの達成状況を確認するほか、個々の学生に適した指導を行っている。さらに学年担任(主・副)のほか、その他の専任教員、教務主任も関与して、適宜個々の学生の学修意欲が高まるようアドバイスを行うなど努めている。</p> <p>また、成績の評価については上段“1”に記載のとおり、学修成果の評価を厳格かつ適正に行っている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>科目単位の成績評価は、「履修規程」第7条(科目の学習成績評価)、第8条(再試験)に基づき、60点以上を合格とし、60点未満は再試験を実施している(満点は1単位毎に100点)。</p> <p>また、臨地実習単位の成績評価は、同「規程」第14条(臨地実習評価の方法)、第15条(再実習、補習実習について)に基づき、60点以上を合格とし、60点未満は再実習を行っている(再実習の合格は60点と評価している)。</p> <p>それぞれの学年次における単位数と評価は次のとおり。</p> <table border="1"> <tr> <td>1年次</td> <td>41単位、41教科の平均点</td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td>37単位、34教科の平均点</td> </tr> <tr> <td>3年次</td> <td>20単位、12教科の平均点</td> </tr> </table> <p>なお、2019(令和元)年より成績管理システム(パッケージソフト)を導入したことにより、GPAを導入(併用)している。</p>		1年次	41単位、41教科の平均点	2年次	37単位、34教科の平均点	3年次	20単位、12教科の平均点
1年次	41単位、41教科の平均点						
2年次	37単位、34教科の平均点						
3年次	20単位、12教科の平均点						
客観的な指標の算出方法の公表方法	本校HP (http://www.minamiosaka-kango.com/images/pdf/information_disclosure.pdf) に掲載						
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>「学則」第23条(卒業)による卒業認定は、「学則施行細則」第12条(卒業の認定)に基づき、「学則」第9条(授業科目・単位数・時間数)に規定する“別表1 授業科目及び単位数・時間数”に定める各学年時毎の授業科目を履修し、98単位を修得した者について、卒業認定対象学生それぞれの成績評価および出席状況等を“卒業審査会議”に諮ったうえで、学校長が行っている。</p> <p>なお、欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超える学生については、卒業を認めていない(「学則施行細則」第12条第3項で規定)。</p>							
卒業の認定に関する方針の公表方法	本校HP (http://www.minamiosaka-kango.com/images/pdf/information_disclosure.pdf) に掲載						

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	南大阪看護専門学校
設置者名	社会医療法人 景岳会

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	社会医療法人景岳会 HP (http://www.minamiosaka.com/zaimu/)
収支計算書又は損益計算書	社会医療法人景岳会 HP (http://www.minamiosaka.com/zaimu/)
財産目録	社会医療法人景岳会 HP (http://www.minamiosaka.com/zaimu/)
事業報告書	社会医療法人景岳会 HP (http://www.minamiosaka.com/zaimu/)
監事による監査報告（書）	社会医療法人景岳会 HP (http://www.minamiosaka.com/zaimu/)

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
医療分野		看護専門課程	看護学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
3年	昼	3060 単位時間	2025 単位時間	単位時間 /単位	1035 単位時間	単位時間 /単位
			単位時間/単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人		125人	人	10人	50人	60人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の5つの分野に分かれ、基礎分野を土台として積上げている。1年次より臨地実習を採り入れ、効果的に積上げていく授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 科目単位認定試験の受験資格は、当該科目の所定授業時間数の、臨地実習評価の対象は、当該実習科目の所定時間数のそれぞれ3分の2以上の出席要件を満たした者とし、両科目ともに60点以上を合格とする。60点未満の場合は、それぞれ再試験、再評価を受けることができる。なお、評価者は、科目認定試験については当該科目担当講師が、臨地実習については当該実習担当教員が、「履修規程」に基づき評価する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 上述の成績評価および出席日数（時間数）が、「学則」「学則施行細則」「履修規程」で定められた進級または卒業単位数を修得しているかを確認し、進級については成績審査会において、卒業については卒業審査会議において判定し、それぞれ認定している。
学修支援等
（概要） 担任制を設けて専任教員を配置し、クラス運営を行うとともに、個々の学生の学修意欲（モチベーション）を向上・維持させるため、定期的あるいは適宜実施する面談・指導により、当該学生の個人目標達成を企図している。また、看護師国家試験対策として1年次より担当教員によるサポートを実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
35人 (100%)	0人 (%)	27人 (77.1%)	8人 (23.9%)
（主な就職、業界等） 南大阪病院 / 日本生命病院 / 浅香山病院 / 大阪回生病院 / 八尾徳洲会総合病院 / 横浜新都市脳神経外科病院 / 北野病院			
（就職指導内容） 3年次4月に実施する“進路アンケート”に基づき、個別面接を実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 過去5年の看護師国家試験においては90%以上の合格率であり、看護師資格を取得している（なお卒業時には全員に“専門士”の称号が与えられる）。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
121人	1人	0.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） ①実習評価の見直し、②副担任による年間サポート、③適宜面接・指導を実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
看護学科	250,000 円	450,000 円	200,000 円	管理・実習費 200,000 円
修学支援 (任意記載事項)				
社会医療法人景岳会による「奨学金制度」を設け、経済的理由による修学困難な学生を支援している。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校 HP (http://www.minamiosaka-kango.com/images/pdf/information_disclosure.pdf) に掲載。 PDF でダウンロード・ハードプリント可能		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>学校関係者評価委員会【※】(委員長)は、自己評価委員会(南大阪看護専門学校に籍を置く教職員5人以内を委員(委員長:副学校長)として設置)の自己評価結果ほかに基づき、学校関係者評価委員会による評価をまとめ、教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努める。</p> <p>※「南大阪看護専門学校 学校評価実施規程」に基づき設置 委員会構成(学校長委嘱) [規程第12条第1項]: 関連業界等関係者4名、卒業生1名、地域代表1名、その他学校長が必要と認める者 委員任期 [規程第12条第2項]: 2年(再任を妨げない) 評価の活用 [規程第16条]: 委員長は評価の結果を活用し、教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
南大阪病院 副院長	2020(令和2)年 4月1日 ~	病院関係者
南大阪病院 看護部長		病院関係者
社会医療法人景岳会 本部部長	2022(令和4)年 3月31日	医療法人関係者
社会福祉法人白寿会 職員		介護施設関係者
南大阪看護専門学校 卒業生	※「南大阪看護専門学校 学校評価実施規程」第12条(関係者委員会の構成)第2項において、“委員の任期は2年、再任は妨げない”と規定	卒業生
個人商店 経営者		地域代表
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校 HP (http://www.minamiosaka-kango.com/images/pdf/information_disclosure.pdf) に掲載。 PDF でダウンロード・ハードプリント可能		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校 HP (http://www.minamiosaka-kango.com) 「SCHOOL GUIDE」、「募集要項」 刊行物の入手は電話(06-6658-1210)または HP (http://www.minamiosaka-kango.com/news-info/request) から申込み
--

南大阪看護専門学校 令和元年度（2019年）・学校関係者評価【要旨】

『南大阪看護専門学校 学校評価実施規程』第16条（学校関係者評価の活用）の規定に基づき、本校教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めている旨確認しましたことをご報告いたします。

令和2（2020）年3月吉日

南大阪看護専門学校 学校関係者評価委員会
委員長 中谷 守一

学校年間目標に対する評価

1 2019年度の学校年間目標と評価について

2019年度の年間目標として次の4項目を掲げました。

- ① 看護師国家試験の合格率100%を目指す
- ② 退学や休学を低減し、効果的に学べる環境を提供する。
- ③ 学校関係者評価を実施し学校の質の向上を図る。
- ④ カリキュラム改正に向けて準備をし、学校運営を見直す

国家試験対策としては、日常的に模擬試験やクラスでの早朝学習を実施して理解度を確認し、3年次の1月～2月には集中的に特別講義を実施しました。また、実習施設との連携を密にするために毎月実習指導者会議を開催し、実習期間中は毎日カンファレンスを実施して学生の課題や問題解決に取り組んでいます。その他、専門業者による履歴書作成や面接対策講座を開催し、国家試験合格者の就職率は100%（進学者含む）となりました。

2 2020年度の学校年間目標について

2020年度年間目標については

- ① 看護師国家試験の合格率为100%にする。
- ② 退学や休学を低減し、効果的に学べる環境を提供する。
- ③ カリキュラム改正に向けて準備をし、学校運営を見直す

の3項目を掲げました。指定校推薦枠の見直し・検討を実施し、質の高い学生を獲得して、学生へのサポート体制も更なる充実を図ります。また、新カリキュラムへの対応も行政機関及び関係諸団体等と連携し、2020年度の国家試験の合格率100%を目指します。

南大阪看護専門学校 学校評価実施規程

(目的)

第1条 この規程は自己評価および学校関係者評価の実施ならびに結果の公表について必要な事項を定めることを目的とする

(定義)

第2条 この規程において学校評価とは学校教育法第133条および学校教育法施行規則第189条に規定する自己評価ならびに学校関係者評価をいう

(自己評価委員会の設置)

第3条 自己評価を適切かつ円滑に行うための組織として学内に自己評価委員会（以下「委員会」という）を置く

(委員会の所掌事項)

第4条 委員会は自己評価の目的を達するため、次の事項を所掌する

- (1) 自己評価の基本方針および実施体制ならびに実施方法の制定・改廃に関すること
- (2) 自己評価の評価基準項目に関すること
- (3) 自己評価報告書の作成に関すること
- (4) 自己評価結果に基づく改善案の提案に関すること
- (5) 自己評価結果の公表に関すること
- (6) その他自己評価の実施について必要な事項に関すること

(委員の構成)

第5条 委員会は南大阪看護専門学校に籍を置く、教職員を委員として構成する

- 2 委員の人数は5人以内とする
- 3 委員の任期は2年とする。但し、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は前任者の残存期間とする
- 4 委員は再任することが出来る

(自己評価の実施)

第6条 自己評価は副学校長の指揮のもと、第4条で定める基本方針、実施体制に基づく責任と役割を教職員それぞれが十分認識し、誠実に取り組まなければならない

(委員会運営)

第7条 委員会には委員長を置く

- 2 委員長には副学校長が就任する
- 3 委員長は会務を総理し、委員会を代表する
- 4 委員長に事故があるときは、また、委員長が欠けたときは、予め委員長が指名する委員がその職務を代理する
- 5 委員会は通常月1回開催するが、臨時に開催する場合は委員長が招集する
- 6 委員会は必要と認める場合に委員以外の者に出席を求めることが出来る

(自己評価結果の活用)

第8条 教職員は、自己評価結果を活用し、教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない

(自己評価結果の報告)

第9条 委員長は自己評価結果を学校運営会議に報告しなければならない

(自己評価結果の公表)

第10条 委員長は学校運営会議の承認を受け、自己評価結果を広く社会に公表しなければならない

(学校関係者評価)

第11条 委員長は自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会(以下「関係者委員会」という)に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動および学校運営に活用しなければならない

(関係者委員会の構成)

第12条 関係者委員会は、次の区分から学校長が委嘱する委員により構成する

- (1) 関連業界等関係者 4名
 - (2) 卒業生 1名
 - (3) 地域代表 1名
 - (4) その他学校長が必要と認める者
- 2 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない

(関係者委員会の運営)

第13条 関係者委員会に委員長を置く

- 2 関係者委員会は学校長が招集し、委員長がその運営にあたる
- 3 学校長が必要と認める場合は、関係者委員会に委員以外の者の出席を求めることが出来る
- 4 関係者委員会は、委員の過半数が出席できなければ開会出来ない
- 5 関係者委員会は自己評価の進捗状況に応じて次年度の計画策定まで1回以上開会しなければならない

(報酬および費用弁償)

第14条 関係者委員会委員の報酬および費用弁償については、本校が定める基準により支払う

(学校関係者評価結果の評価結果)

第15条 委員長は関係者委員会による評価結果をまとめ、報告書を作成する

(学校関係者評価の活用)

第16条 委員長は学校関係者評価の結果を活用し、教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない

(学校関係者評価結果の報告)

第17条 委員長は学校関係者評価の結果を学校運営会議に報告しなければならない

(学校関係者評価結果の公表)

第18条 委員長は学校関係者評価の結果について学校運営会議の承認を受け、自己評価結果を公表しなければならない

(その他)

第19条 本規程に定めのない学校評価に関する事項については委員会で協議し、別に定める

附則

この規程は平成27年9月1日から施行する

南大阪看護専門学校

自己評価者および学校関係者評価者における守秘義務規程

第1条 南大阪看護専門学校が（以下「学校」という）実施する自己点検評価および学校関係者評価（以下「自己および関係者評価」という）に従事する評価者は目的および異議を十分に理解し、学校の運営および教育活動の改善・向上に貢献することを使命とし、公正誠実に評価活動をしなければならない。

第2条 本規程において評価者とは、南大阪看護専門学校の学校評価実施規程に定める自己評価委員および学校関係者評価委員をいう。

第3条 評価者が評価活動を通じて収集した情報は、学校関係者評価以外の目的に使用してはならない。

第4条 評価者は、評価を通して閲覧に供した資料および訪問調査結果その他の評価活動を通じて得られた情報を漏洩してはならない。なお、この守秘義務は評価活動の終了後も継続するものとする。

2 前項の義務は次の各号については適用されないものとする。

- (1) 評価者が第2条の委員として委嘱されているという事実
- (2) 公表を前提として学校が作成した刊行物
- (3) 当該年度の自己評価結果および学校関係者評価結果が公表された後に於ける当該年度の評価に従事した全ての評価者の職氏名

第5条 評価者は本校事務局から渡された自己点検評価および学校関係者評価に関する資料のうち未公表の資料および学校が指定する資料は評価活動終了後速やかに学校事務局に返却しなければならない。

第6条 この規程に定めのないもの。およびこの規程の施行に必要な事項は別に定める。

附則

この規程は平成27年9月1日から施行する。

社会医療法人景岳会 南大阪看護専門学校

学校関係者評価委員

任期 2020（令和2）年4月1日～2022（令和4）年3月31日

[順不一、敬称略]

	氏名	所属
委員長	中谷 守一	社会医療法人景岳会 南大阪病院副院長
委員	渡邊 美津江	社会医療法人景岳会 南大阪病院看護部長
〃	原田 聡	社会医療法人景岳会 本部部長
〃	山内 恵美	社会福祉法人白寿会 職員
〃	夜久 直也	南大阪看護専門学校 卒業生
〃	井上 義雄	地域代表

2020（令和2）年4月1日現在

「客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料」

令和元(2019)年度

社会医療法人 景岳会

南大阪看護専門学校

客観的な指標の算出方法

履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出
(100点満点で点数化)

学科名	看護学科	学年	1年	学生数	39人	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51～60点	60～70点	70～80点	80～90点	90～100点
人数	0人	0人	3人	15人	20人	1人
下位1/4に該当する人数			9人			
下位1/4に該当する指標の数値			74.6点以下			
学科名	看護学科	学年	2年	学生数	44人	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51～60点	60～70点	70～80点	80～90点	90～100点
人数	0人	0人	8人	17人	18人	1人
下位1/4に該当する人数			11人			
下位1/4に該当する指標の数値			73.3点以下			
学科名	看護学科	学年	3年	学生数	35人	
成績の分布						
指標の数値	～50点	51～60点	60～70点	70～80点	80～90点	90～100点
人数	0人	0人	4人	23人	7人	1人
下位1/4に該当する人数			8人			
下位1/4に該当する指標の数値			71.4点以下			

【卒業の認定】

本校の卒業認定は、「学則」第 23 条（卒業）ならびに「学則施行細則」第 12 条（卒業の認定）に基づき、「学則」第 9 条（授業科目・単位数・時間数）に規定する“別表 1 授業科目及び単位数・時間数”に定める各学年時毎の授業科目を履修し、98 単位を修得した者について、卒業認定対象学生それぞれの成績評価および出席状況等を“卒業審査会議”に諮ったうえで、学校長が行っている。

なお、欠席日数が出席すべき日数の 3 分の 1 を超える学生については、卒業を認めていない（「学則施行細則」第 12 条第 3 項で規定）。

参考

【南大阪看護専門学校学則（抜萃）】

第 9 条（授業科目・単位数・時間数）

授業科目及び単位数・時間数は別表 1（割愛）のとおりとする。

第 23 条（卒業）

卒業の要件は次のとおりとする。学校運営会議で卒業を許可された者に別記様式による卒業証書を授与する。

- (1) 第 9 条に定める単位すべて認定された者
- (2) 学校が別に定める時間数の 3 分の 2 以上出席している者

【南大阪看護専門学校学則施行細則（抜萃）】

第 12 条（卒業の認定）

学則第 23 条による卒業の認定は、成績評価及び出席状況等により、卒業審査会議に諮った上で学校長が行う。

2. 学校長は、学則第 9 条別表 1 に定める授業科目を履修し、98 単位を修得した者について、卒業を認定する。
3. 欠席日数が、出席すべき日数の 3 分の 1 を超える者については、卒業を認めないものとする。

[南大阪看護専門学校 2020年度] 1年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教科書	単位数	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	国語表現	正確な文章の表現の仕方	井上 新子		書き込み式 日本語表現ノート	1	30
		倫理学	倫理とは 看護行為における倫理	桑原 英之		G supple 事例で学ぶケアの倫理	1	30
		生物学	生命現象の基本原則	富山 浩昌		系統看護学講座 基礎分野 生物学	1	30
		看護に必要な物理	力学、移動、圧力などの看護に必要な物理学の考え方	大又 巧也		看護学生のための物理学	1	15
		情報科学	情報化社会 コンピューター プレゼンテーションの基礎	渡辺 恭彦		系統看護学講座 別巻 看護情報学	1	30
	人間と生活・ 社会の理解	心理学	心理学の基礎	高橋 千津子		あなたの心を科学する パージョンⅢ	1	30
		社会学	社会の成り立ち、社会を知る方法	笠井 敬太		系統看護学講座 社会学	1	30
		英語 I・II	英語の基礎 医療で用いる英会話	中内 啓太		現場ですぐに役立つ！実践メディカル英会話	2	60
		健康とレクリエーション	体力の増進と健全な心身の育成	好光 栄智			1	30
		音楽	音楽を通して協調性協働性を育成する	河合 清子		式典歌集 プリント	1	15
人体の構造と機能	解剖生理学 I～IV	人体の構造と機能	宮越 一穂 [実] ※1	①医師(2名とも) ②看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1)日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2)疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する 土台となる正常な人体について理解する	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学	4	120	
		内分泌系・血液のみ	新藤 光郎 [実] ※2					
	生化学	人体の仕組みと機能を化学的視点で考える	山本 恵三 [実]	①工学博士 ②看護学において、人体を維持する仕組みを理解する上で基本となる、化学的視点を養うことを目標とする 1)生体を構成する分子の構造を生化学的視点から理解する 2)生体内で化学物質がどのように反応して生命を維持しているかを理解する	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学	1	30	
	栄養学	栄養と栄養療法	吉田 有里 [実]	①管理栄養士 ②栄養学は人間の健康づくりのための学問であり、その基礎知識を学習することは、臨床で応用する場合に必要な不可欠である。本講義では最新の栄養学的見地に基いた栄養管理、栄養食事療法への理解を深めながら、看護実践における栄養学的な知識を習得する	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④臨床栄養学	1	30	
微生物学	病原微生物	新藤 光郎 [実] ※2	①医師 ②病原微生物について、看護現場で必要な知識を身につける看護現場での感染管理の実践に役立てる	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学	1	30		

[南大阪看護専門学校 2020年度] 1年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教科書	単位数	時間
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	病気の原因、発生の機序、病気における臓器、組織の変化	小林 庸次 [実]	①医師 ②病理学は病気の原因、発生の機序、病気による臓器・組織の変化、その経過、予後を追求する学問である。病気の原因や各種疾患に共通する変化を学ぶことにより、病気への理解を深め、その治療、予防に対する基礎的知識を会得することを目標とする	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学	1	30
		病態生理学Ⅰ	呼吸器	未定	①医師(東野、中谷の2名)、歯科医師(田村のみ) ②各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする	系統看護学講座 成人看護学 呼吸器	1	12
			免疫・アレルギー感染症	東野 英明 [実]		系統看護学講座 成人看護学 アレルギー膠原病感染症		12
			歯・口腔系	田村 浩一 [実]		系統看護学講座 成人看護学 歯・口腔		4
			乳癌	中谷 守一 [実]		系統看護学講座 成人看護学 女性生殖器		2
		病態生理学Ⅱ	消化器	小味 潤 智雄 [実] ※3	①医師(2名とも) ②各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする	系統看護学講座 成人看護学 消化器	1	22
			栄養・代謝 内分泌	濱崎 健司 [実]		系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝		8
		病態生理学Ⅲ	血液・造血器	新藤 光郎 [実] ※2	①医師(4名とも) ②各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする	系統看護学講座 成人看護学 血液・造血器	1	8
			腎・泌尿器(透析療法)	久米田 靖郎 [実]		系統看護学講座 成人看護学 腎泌尿器		8
			腎・泌尿器(手術療法)	竹垣 嘉訓 [実]		系統看護学講座 成人看護学 腎泌尿器		6
			女性生殖器	中村 哲生 [実]		系統看護学講座 成人看護学 女性生殖器		8
		病態生理学Ⅳ	運動器	森川 潤一 [実]	①医師(2名とも) ②各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする	系統看護学講座 成人看護学 運動器	1	14
			脳神経	新藤 光郎 [実] ※2		系統看護学講座 成人看護学 脳・神経		16
		病態生理学Ⅴ	循環器	宮越 一穂 [実] ※1	①医師(4名とも) ②各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする	系統看護学講座 成人看護学 循環器	1	18
			皮膚	清水 奈美 [実]		系統看護学講座 成人看護学 皮膚		4
			眼	米本 由美子 [実]		系統看護学講座 成人看護学 眼		4
			耳鼻咽喉	宮田 啓史 [実]		系統看護学講座 成人看護学 耳鼻咽喉		4
		治療論	概説	飛田 忠之 [実] 賀陽 亮太郎 [実]	①医師(飛田、嘉陽の2名) ②様々な状況下にある患者の治療方法や リハビリテーション	新体系 看護学全書 臨床看護総論 系統看護学講座 臨床外科看護総論	1	8

[南大阪看護専門学校 2020年度] 1年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教科書	単位数	時間
			リハビリテーション療法	未定	①リハビリテーション療法を学び、基礎的知識とする	系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論	1	8
		薬理学	薬理的知識と臨床薬理	梶原 啓伯 [実]	①薬剤師 ②臨床の現場で患者ケアにあたる看護師にとっては、医薬品の作用機序、生体内の動態、有効性、安全性や投与方法など、薬理的知識とその活用は必要不可欠となる。看護の実践の場で必要とされる臨床薬理的基礎知識の習得を目指す	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学	1	30
専門基礎分野	社会 生活者の健康と 保障制度	医療概論	医療の変遷と現代医療の概要	小味 潤 智雄 [実] ※3	①医師 ② 1)現在の医療がどのように発展してきたかを理解するとともに、最新の画期的な新技術の活用によってもたらされた現代の医療を理解する 2)現代医療の諸問題について理解できる	新体系 看護学全書 6 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 1 現代医療論	1	15
		社会福祉Ⅰ	概論 社会保障制度	岡本 周佳 [実] ※5	①社会福祉士 ② 1)看護職が社会福祉を学ぶ意味を理解し、社会福祉の考え方や視点を理解する 2)現代社会や日常生活における社会問題に気付く力を養い、それらの問題に対応する法律や制度ならびに援助技術を学ぶ	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉	1	15
		公衆衛生学	公衆衛生	吉川 賢太郎 [実]	①医師 ②私たちの生活や健康は、社会の制度に支えられている。公衆衛生学は、健康を支える制度そのものである。公衆衛生の歴史や体制、内容を知り、自らの生活や健康を守り、向上を図るための知識を習得する	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 国民衛生の動向	1	30
		看護学概論Ⅰ	看護とは・看護の歴史の変遷・健康と看護・人間理解・看護の機能・看護と倫理	高岡 操 [実] ※6	①看護師、専任教員 ②この授業では、看護の考え方や捉え方を学ぶ。看護についての考え方や捉え方を学んでいく中で、「普遍的な看護」を理解し、自己の看護観の形成へとつなげていくことを目的とする	系統看護学講座 基礎看護学 看護学概論 よくわかる 看護者の倫理綱領 看護覚え書 看護の基本となるもの 看護者の基本的責務	1	30
		基礎看護技術Ⅰ	技術論・環境・安全	山内 雅子 [実] ※7	①看護師(2名とも、夜久は感染管理認定看護師) ②この授業では、看護の方法としての技術のうち、環境の整備、安全の守り方、安楽な技術の提供の方法、感染予防の基礎技術を学ぶことを目的とする	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 よくわかる 看護者の倫理綱領 看護覚え書 看護の基本となるもの	1	18
			感染	夜久 直也 [実]				2
		基礎看護技術Ⅱ	コミュニケーション技術・援助的関係	上田 智恵美 [実] ※14	①看護師、専任教員 ② 1)看護の場面におけるコミュニケーションの意義と特性を理解する 2)看護に必要な接遇マナーについて学び、技術を身につける 3)人間関係作りの基礎となるコミュニケーションに関する理論を理解し効果的なコミュニケーションの方法を学ぶ 4)看護における教育的支援の目的を理解し、効果的なアプローチの方法を身につける	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ	1	30

[南大阪看護専門学校 2020年度] 1年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教科書	単位数	時間
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護技術Ⅲ	食事・排泄・活動・運動・休息	井手窪 澄子 [実] ※9	①助産師、看護師、専任教員 ② 1)人間の活動と休息を理解し、対象が健康生活を送るために必要な援助を理解する 2)栄養と食事のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法を理解する 3)食事行動や健康のレベルなどに応じた栄養と食事のニーズを充足させる方法について効果的な看護の援助技術を習得する 4)人間の排泄を理解し、患者が健康的に生活を送るために必要な排泄援助を習得する	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	1	30
		基礎看護技術Ⅳ	身体の清潔援助技術	徳田 薫 [実] ※8	①看護師、専任教員 ②身体を清潔に保つことは、人間が健康で生活するためには不可欠である。ここでは、清潔の意義を身体的、精神的、社会的な側面から理解し、援助する方法を習得する 1)清潔、衣生活の意義とその援助の目的を理解する 2)清潔、衣生活の援助技術を習得する	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	1	30
		基礎看護技術Ⅴ	バイタルサイン・フィジカルアセスメント	高田 紳吾 [実] ※10	①看護師、専任教員 ② 1)ヘルスアセスメント(フィジカルアセスメント)の意義と根拠が理解できる 2)一般状態の観察、バイタルサインを測定することの意義と根拠が理解できる 3)バイタルサイン(呼吸・体温・脈拍・意識)を正確に測定できる 4)フィジカルイグザミネーションが正確に実施できる	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 フィジカルアセスメントガイドブック	1	30
		基礎看護技術Ⅵ	看護過程	東浦 龍至 [実] ※11	①看護師、専任教員 ② 1)科学的思考・問題解決思考に基づく看護過程の展開における思考が理解できる 2)ゴードンの機能的健康パターンによる看護診断に基づいた看護過程を理解し、対象者のニーズを満たすための看護過程の展開方法が理解できる	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ ゴードン看護診断マニュアル	1	30
		基礎看護技術Ⅶ	与薬 検査	山内 雅子 [実] ※7	①看護師 ② 1)診療過程における看護師の役割を理解し、治療処置に伴う援助技術の基本を習得する 2)与薬を安全かつ正確に行う技術を習得する 3)治療・処置時の対象者の心理と看護者の役割が理解できる	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	1	30
		基礎看護技術Ⅷ	呼吸 循環を整える技術 救急救命処置 創傷管理	辻野 美嘉 [実] ※18 村上 巖 [実] ※12	①看護師(2名とも、村上は皮膚・排泄ケア認定看護師)、専任教員(辻野のみ) ② 1)救急時、終末期における看護の役割を理解し、必要な基礎的な技術を修得する 2)効果的な呼吸への援助方法を習得する 3)安全・安楽な電法の援助方法を習得する	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	1	26 4

[南大阪看護専門学校 2020年度] 1年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教科書	単位数	時間
		臨床看護総論	経過別看護・治療処置別看護・主要症状別看護	辻野 美嘉 [実] ※18	①看護師、専任教員 ② 1)多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ 2)看護師に求められる問題解決能力の基礎を学習することで、主体的学習行動を習得することができる	系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論	1	30
	実 臨 習 床	基礎看護学実習 I					1	15
専 門 分 野 II	成 人 看 護 学	成人看護学概論	成人看護学概論	高田 紳吾 [実] ※10	①看護師、専任教員 ② 1)成人の身体的・心理的・社会的側面からとらえ、個人およびその家族の発達段階と発達課題を統合的に理解できる 2)学習者としての成人の特徴をとらえ、健康教育や患者教育の基礎が理解できる 3)成人の生活に焦点を当て、成人期にみられる健康障害や成人の看護に有用な概念について理解できる	系統看護学講座 成人看護学 成人看護学総論	1	30

[南大阪看護専門学校 2020年度] 2年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教本	単位数	時間
基礎分野	人間と生活・社会の理解	人間関係論	人間と人間の相互関係を心理学的視野より学ぶ	高橋 千津子	/	テキスト心理学	1	30
		教育学	教育学の基礎知識及び教育における社会の課題	上田 勝江		1	30	
専門基礎分野	健康の支援と 社会保障の制度	社会福祉Ⅱ	社会福祉の実際	岡本 周佳 [実] ※5	①高等学校教諭(一種)、社会福祉士 ②この授業では、社会福祉の考え方について、現代の社会状況や生活・暮らしの視点から理解を深めます 本授業の目標は、 1) 福祉的な視点を理解し、専門職として現場で応用できるようになること 2) 社会福祉領域との連携への素地をつくることです	系統看護学講座 社会保障・社会福祉	1	30
		社会保障論	社会保障制度	新田 正尚 [実] 酒井 哲雄	①介護支援専門員(新田のみ) ②この授業では、社会保障制度の目的、機能、範囲、歴史、組織、財政等について学習する。とくに、看護の分野では医療保険、介護保険、年金制度についての理解が必要であり、基本的な仕組みなど具体的に学び、看護の対象を支えている社会保障制度の概観をつかむことを目的とする	よくわかる社会保障	1	15
		関係法規	保健師助産師看護師法 医療法規ほか	朽木 悦子 [実] 高橋 育美 [実]	①保健師(2名とも)、看護師(2名とも)、精神保健福祉士(高橋のみ) ②看護職を取り巻く行政法・社会法の分野は、国民のニーズの変化に伴い、日々変化してきており、「看護」の現場を取り巻く医療法規の解釈は、看護業務の適切な履行、事故防止、また事故への対処において重要な要素である。 本授業では、保健師助産師看護師法を中心に、医療法、保健衛生法規、労働関係法規の概要を学び、看護職を取り巻く法的背景を理解する	系統看護学講座 看護関係法令 私たちのよりどころ保健師助産師看護師法 図説 国民衛生の動向	1	15
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論Ⅱ	看護理論 看護研究	高岡 操 [実] ※6	①看護師、専任教員 ② 1) 看護理論の変遷を学び、看護理論家を通じて看護の本質とは何かを考える姿勢を身につける 2) 看護研究の基礎的知識を学び、看護実践を通して研究的視点を広がる	系統看護学講座 基礎看護学1 看護学概論 看護理論 看護理論20の理解と実践への応用 系統看護学講座 別巻 看護研究	1	15
		実 習 地	基礎看護学実習Ⅱ					2

[南大阪看護専門学校 2020年度] 2年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教本	単位数	時間
成人看護学		成人看護学方法論Ⅰ	急性・重症看護	高田 紳吾 [実] ※10 樋口 雄之助 [実]	①看護師(2名とも、樋口は救急認定看護師)、専任教員(高田のみ) ② 1)急性・重症看護をもとに、生命の危機状況への支援、合併症の予防、回復への援助について学ぶ 2).疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ	系統看護学講座 成人看護学 呼吸器 循環器 系統看護学講座 成人看護学総論 ゴードン看護診断マニュアル	1	30
		成人看護学方法論Ⅱ	周手術期看護	東浦 龍至 [実] ※11	①看護師、専任教員 ② 1)手術を受ける患者・家族に対する生命維持、苦痛の緩和、早期回復に向けた看護について学ぶ 2)手術による身体侵襲とボディメージの変化を理解し、手術後の機能障害に対する援助や手術後の継続的な自己管理に対する援助を学ぶ	系統看護学講座 成人看護学 消化器 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 ゴードン看護診断マニュアル	1	30
		成人看護学方法論Ⅲ	セルフケア セルフコントロール	高田 紳吾 [実] ※10	①看護師、専任教員 ② 1)慢性疾患など生涯にわたりコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知りその状況に応じた看護の役割と方法を学ぶ 2)疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ	系統看護学講座 成人看護学総論 系統看護学講座 成人看護学 消化器 内分泌 腎泌尿器 ゴードン看護診断マニュアル	1	30
		成人看護学方法論Ⅳ	リハビリテーション看護	山内 雅子 [実] ※7 村上 巖 [実] ※12	①看護師(2名とも、村上は皮膚・排泄ケア認定看護師) ② 1)回復期における患者の身体的、心理的、社会的な側面について学ぶ 2)疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ	系統看護学講座 成人看護学 脳神経 腎・泌尿器 女性生殖器 眼	1	30
		成人看護学方法論Ⅴ	がん看護 緩和ケア	東浦 龍至 [実] ※11 神崎 和美 [実]	①看護師(2名とも、神崎はがん専門看護師/がん性疼痛認定看護師)、専任教員(東浦のみ) ② 1)がん患者の全人的苦痛を理解し、治療に応じた看護の方法と症状が及ぼす苦痛に対しての看護について学ぶ 2)疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ	系統看護学講座 成人看護学 血液・造血器 アレルギー 皮膚 ナーシンググラフィカ 成人看護学 緩和ケア	1	30
老年看護学		老年看護学概論	老年看護の概念・特徴	徳田 千代乃 [実] ※13	①看護師、専任教員 ② 1)高齢者を取り巻く社会の動向を理解する 2)高齢社会における保健医療福祉制度や施策を理解する 3)加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化について理解する 4)多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解する	系統看護学講座 老年看護学 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術	1	30
		老年看護学方法論Ⅰ	老年人特有の障害・症状への看護	前岡 富士子 [実] 山内 恵美 [実]	①看護師(2名とも)、介護支援専門員(山内のみ) ②さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護について学ぶ 1)高齢者に特有な健康障害を理解する 2)健康障害に応じた援助方法を理解する 3)高齢者を看護する留意点について理解を深める	系統看護学講座 老年看護学 老年看護 系統看護学講座 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術	1	30

[南大阪看護専門学校 2020年度] 2年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教本	単位数	時間
専門分野 II		老年看護学方法論Ⅱ	自立生活への看護	徳田 千代乃 [実] ※13	①看護師、専任教員 ②さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護について学ぶ 1) 高齢者の日常生活を支える看護について理解する 2) さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護を理解する	系統看護学講座 老年看護学 老年看護 系統看護学講座 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術	1	30
		老年看護学方法論Ⅲ	看護過程・看護技術	徳田 千代乃 [実] ※13	①看護師、専任教員 ②紙上事例を基にさまざまな健康状態にある高齢者の看護過程を展開し、受療状況に応じた看護について理解を深める	系統看護学講座 老年看護学 老年看護 系統看護学講座 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術	1	15
	小児看護学	小児看護学概論	小児看護の特徴 小児保健	上田 智恵美 [実] ※14	①看護師、専任教員 ② 1) 小児看護の意義・役割・機能が理解できる 2) 子ども観の歴史の変遷・小児看護の変遷を知ることが出来る 3) 小児期の特徴と各期の成長・発達について理解できる 4) 小児保健の動向と保健対策の概要を知り、看護の役割と機能について学ぶ	新体系看護学全書 小児看護学概論 小児保健 国民衛生の動向 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術	1	30
		小児看護学方法論Ⅰ	疾患の理解	藤岡 弘季 [実]	①医師 ②小児の発達と発育を軸とした小児疾患の病態を理解する	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護	1	30
		小児看護学方法論Ⅱ	小児看護の方法	徳田 薫 [実] ※8	①看護師、専任教員 ② 1) 病気や入院による子どもとその家族に及ぼす影響と看護について理解することができる 2) 小児の疾患について、小児の特徴を踏まえて理解し、それぞれの状態に応じた看護が展開できる 3) 子どもに起こりやすい症状について、それぞれの状態に応じた看護援助の方法を考えることができる 4) 医療安全の観点から小児の発達課題に伴うリスクについて考えることができる	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術	1	30
		小児看護学方法論Ⅲ	看護過程	徳田 薫 [実] ※8	①看護師、専任教員 ②小児期にある健康障害を持つ対象を理解し、それぞれの状態に応じた看護が展開できる能力を身につける 1) 疾患・治療が及ぼす影響を最小限にし、成長・発達を促す援助を考えることができる 2) 患児及び家族への生活指導に対して、計画的・実践的な援助を考えることができる	新体系看護学全書 小児看護学概論 小児保健 健康障害を持つ小児の看護 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術	1	15
		母性看護学概論	母性看護の概念・特徴・母性保健	井手窪 澄子 [実] ※9	①助産師、看護師、専任教員 ② 1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基本に母性看護の対象の特性を理解しあらゆる健康レベルに応じた看護が実践できる基礎知識を習得する 2) 母性看護の概念・倫理および母性看護の意義とその役割について理解すると共に女性のライフサイクル各期における健康課題及びその看護の役割を学ぶ	系統看護学講座 母性看護学① 母性看護学概論 系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 国民衛生の動向	1	30
		母性看護学方法論Ⅰ	母性・周産期各期の理解	福田 洋 [実]	①医師 ② 1) マタニティサイクル(妊娠、分娩、産褥、新生児期)の正常及び異常経過について理解する 2) ライフサイクル各期(思春期、成熟期、更年期・老年期)の健康と健康障害について理解する	系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論	1	30

[南大阪看護専門学校 2020年度] 2年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教本	単位数	時間
看護学	母性看護学	母性看護学方法論Ⅱ	周産期看護	井手窪 澄子 [実] ※9	①助産師、看護師、専任教員 ② 1) マタニティサイクル(妊娠・分娩・産褥および新生児期)の特性について理解する 2) マタニティサイクル(妊娠・分娩・産褥および新生児期)にある母子とその家族が健康的な生活を送るために必要な看護を理解する 3) 授業を通して自己の母性観を発展させることができる	系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 根拠と事故防止から見た母性看護技術	1	30
		母性看護学方法論Ⅲ	看護過程	井手窪 澄子 [実] ※9	①助産師、看護師、専任教員 ② 1) 母性看護に必要な基礎的技術を学ぶ 2) 既習の妊婦、産婦、褥婦および新生児の正常経過を理解し、母子とその家族に対して必要な看護が展開できる基礎的能力を養う	系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 根拠と事故防止から見た母性看護技術 マタニティ診断ガイドブック	1	15
	精神看護学	精神看護学概論	精神看護の概念・特徴 精神保健	増田 明 [実] ※15	①看護師 ②この健康とは何か、こころが病むとはどういうことなのか、これらを学習することで広く人間を理解することを探求する。さらに、精神看護領域における基本的援助技術及び看護場面における介入の裏付けとなる対人関係論について学習する。また、精神保健福祉制度の歴史的変遷及び関連法規についての理解を深め、最近の動向を踏まえて看護のあり方を探求し、実践能力の向上を図る	系統看護講座 精神看護学 精神看護の基礎	1	30
		精神看護学方法論Ⅰ	精神疾患の理解	岩瀬 緯子 [実]	①医師 ②精神科の医療機関のみならず、幅広い分野で知識を生かせるように習得していく。まず、基盤となる人権について、その歴史を学び理解を深める。そして、すべての疾患の看護に共通する精神の働きを知ると共に、各精神疾患について、その特徴と幅広い知識を学ぶ	系統看護講座 精神看護学 精神看護の基礎	1	30
		精神看護学方法論Ⅱ	精神看護援助	増田 明 [実] ※15	①看護師 ②精神看護の対象の特性を理解し、こころの健康を維持するため援助と、精神障害者及び家族への援助に必要な基礎的知識を学び、社会資源を活用した地域生活を支えるシステムを探究する	系統看護講座 精神看護学 精神看護の展開	1	30
		精神看護学方法論Ⅲ	精神看護過程	増田 明 [実] ※15	①看護師 ②個々の事例を通して、精神看護に必要な自己洞察について学び、こころの問題に直面している対象に必要な看護が展開できる能力を身につける	系統看護講座 精神看護学 精神看護の基礎 系統看護講座 精神看護学 精神看護の展開	1	15
	実 臨 習 地	成人看護学実習						6
老年看護学実習Ⅰ							2	90

[南大阪看護専門学校 2020年度] 2年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教本	単位数	時間
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	在宅看護の概念 地域保健医療福祉の連携	太田 和江 [実] ※16	①看護師、元専任教員 ②在宅看護のイメージ化をはかり、地域における看護師像を描くことができる 1)在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念が説明できる 2)在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴が説明できる 3)在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源についてわかる 4)地域での看護師はどうあるべきかを自己の意見として述べるができる	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術	1	30
		在宅看護方法論Ⅰ	在宅看護の特徴と看護の実際	太田 和江 [実] ※16	①看護師、元専任教員 ②在宅において合理的かつ経済的な方法を用い、医療処置等家族への療養指導を踏まえた看護技術を提案するための基礎的な知識を習得する 1)在宅医療で用いられている機器や器具について理解することができる 2)看護技術を在宅で提供するときの考え方の基礎を身につける 3)事例に基づいた療養生活を支援する自助具について企画し、発表することができる	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術	1	30
		在宅看護方法論Ⅱ	在宅療養者の理解	太田 和江 [実] ※16	①看護師、元専任教員 ②在宅療養生活のQOLを高め、より長く維持、継続させていくための方策を学ぶ 1)訪問看護導入から終結までの流れが説明できる 2)在宅療養者の特徴に基づく在宅における看護が理解できる 3)様々な社会資源を用いながら療養支援を考えることができる 4)自己決定を支える支援を考えることができる	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術	1	30
		在宅看護方法論Ⅲ	看護過程	辻野 美嘉 [実] ※18	①看護師、専任教員 ②訪問看護過程の特徴を見出し、看護展開の基礎能力を身につける 1)在宅看護におけるアセスメントの方法と方向性を理解する 2)生活の視点で考えた支援計画が立案できる 3)在宅ケアのネットワーク構築の必要性が理解できる	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 ゴードン看護診断マニュアル	1	15

[南大阪看護専門学校 2020年度] 3年次開講科目講師教科書一覧表

分野	教育内容	科目名	教科内容	講師名 [実]:実務経験者	①実務経験のある講師の資格 ②実務経験を活かした授業への取り組み	教本	単位数	時間
		小児看護学実習					2	90
		母性看護学実習					2	90
		精神看護学実習					2	90
看護の統合と実践		看護管理	看護管理	田原 しのぶ [実] 渡邊 美津江 [実]	①看護師(2名とも) ② 1)看護管理について基礎的な理解を深め、医療チーム及び多職種との連携ができる 2)看護実践におけるマネジメントについて考えることができる 3)良質な医療及び看護について追求する姿勢を育てる	系統看護学講座 看護管理	1	15
		看護研究	事例研究発表	徳田 薫 [実] ※8	①看護師、専任教員 ② 1)これまでの看護実践を看護理論や研究成果と照合し、自己の看護観を明確にする 2)事例研究の過程やその結果を通して、看護職者としてエビデンスに基づく実践を取り入れ、研究力を身につけることができる	看護理論 看護理論20の理解と実践への応用 系統看護学講座 別巻 看護研究	1	15
		災害看護	災害時の看護の役割と技術	岸本 ゆき江 [実]	①看護師、保健師 ② 1)災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を修得できる 2)災害における看護の役割について理解し、命の大切さと人々の生活を考えることができる 3)防災・減災マネジメントの一環として、学校防災訓練を企画運営することができる	系統看護学講座 災害看護学 国際看護学 東日本大震災 石巻災害医療の全記録	1	30
		看護の統合と実践	臨地場面での総合的な技術の習得と対応	東浦 龍至 [実] ※11	①看護師、専任教員 ② 1)臨床に近い状況下で複数の患者への看護を考え、総合的な判断や対応する能力を養う 2)診療の補助技術における事故防止のための知識・技術を習得し、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる	新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 医療安全ワークブック	1	30
臨地		在宅看護論実習					2	90

[南大阪看護専門学校 2020年度] 3年次開講科目講師教科書一覧表

	実習	統合実習		2	90
--	----	------	--	---	----

南大阪看護専門学校

2020 年度 シラバス

1 年次

授業科目名	解剖生理学 I	担当講師名	宮越 一穂
開講時期	1年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	<p>看護に必要な人体の構造と機能を理解する</p> <p>1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する</p> <p>2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する</p>		
授 業 内 容		備 考	
<p>1. 看護の土台となる解剖生理学</p> <p>1) 解剖学、生理学とは</p> <p>2) 解剖生理学的正常位、方向用語、断面</p> <p>3) 腔所と臓器</p> <p>4) 生命と恒常性 (ホメオスタシス)</p> <p>5) フィードバック機構と構成要素</p> <p>2. 細胞・組織</p> <p>1) 人体を構成する元素と微量元素</p> <p>2) 核の構造と核膜、染色体、染色質 (クロマチン)</p> <p>3) 細胞膜の構造と機能</p> <p>4) タンパク質合成に関与する RNA の機能</p> <p>5) 細胞内小器官の各部の名称と機能</p> <p>6) 細胞質分裂と減数分裂</p> <p>7) 主要な組織 (上皮、支持、筋、神経) と各組織の名称</p> <p>8) 各組織の存在する人体の部位</p> <p>3. 皮膚と膜</p> <p>1) 漿膜の構造と機能 2) 粘膜と皮膚の連続部位</p> <p>3) 滑膜や滑液包の部位と役割 4) 表皮・真皮・皮下組織の構造</p> <p>5) 皮膚の機能 6) 体温の調節機能</p> <p>4. 循環器系</p> <p>1) 心臓の位置と各部位 2) 体内循環</p> <p>3) 脳循環と体循環 4) 心臓に栄養を送る血管</p> <p>5) 刺激伝導系 6) 心周期と心音、心電図</p> <p>7) 心拍と心拍の調整 8) 動脈、静脈の構造と機能</p> <p>9) 主な動脈と静脈の名称 10) 脳、門脈、胎児の循環</p> <p>11) 血圧と脈拍 12) 血圧の調整因子</p> <p>13) 脈拍の触れることのできる血管 14) リンパ系、循環器系、免疫系の関連</p>			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)		

授業科目名	解剖生理学 II	担当講師名	宮越 一穂
開講時期	1年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
授 業 内 容		備 考	
1. 呼吸器系 1) 呼吸器官 鼻や口から入る空気が肺に至るまでに通る器官 2) 呼吸器系の加温・加湿・清浄化（感染制御）機構を述べる 3) 胸腔における胸膜と肺の位置 4) 肺胞の構造 5) 呼吸の機能 6) スパイロメーター 7) 肺活量、%肺活量、一秒量、1秒率の臨床応用 8) 外呼吸、内呼吸 2. 消化器系 1) 食欲の調節機構 2) 唾液の成分と機能 3) 歯の構造と乳歯と永久歯の名称 4) 嚥下の機構 5) 胃、小腸、大腸の構造名 6) 消化管や付属腺から分泌される消化酵素と各々が作用する食物 3. 腎・泌尿器系 1) ネフロン構造 2) 糸球体の濾過と尿細管の再吸収、分泌による尿の生成過程 3) 尿に含まれる物質 4) 無尿、乏尿、多尿 5) アルドステロンの影響とナトリウム、カリウムの調整 6) 排尿の機構 7) 尿道の構造と男女差 4. 生殖器系 1) 卵巣の機能 2) 卵管、子宮、膣と膀胱、直腸との位置関係 3) 卵胞、黄体、卵子発生の機序 4) 排卵 5) 月経周期に伴う子宮内膜の変化とホルモン 6) 受精と受精卵の着床 7) 妊娠による母体の変化 8) 精子の産生と射精 9) 精巣の特殊な細胞と機能 10) 男子の生殖腺の名称、開口部および分泌腺 11) 陰囊の精巣の温度調節 12) 陰茎の構造 13) 精子の形成過程			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)		

授業科目名	解剖生理学 III	担当講師名	1・2 新藤光郎 3・4 宮越一穂
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	看護に必要な人体の構造と機能を理解する 1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する 2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する		
授 業 内 容		備 考	
【新藤講師】(12時間) 1. 内分泌系 1) 内分泌臓器およびホルモンの種類 2) 下垂体、性腺など 3) 甲状腺、副腎 2. 血液 1) 赤血球造血と血液型 2) 止血機序 3) 白血球とリンパ球 【宮越講師】(18時間) 3. 骨格系 1) 骨格器系の機能 2) カルシウム代謝と骨の役割 3) 骨芽細胞の働き 4) 頭蓋の骨の名称 5) 泉門 6) 脊柱を構成する椎骨 7) 椎間板の働き 8) 上肢と下肢の骨の名称 9) 骨盤の形状と性差 10) 3種類の関節とその名称 11) 屈曲、伸展、外転、内転、回内、回外 12) 骨のスケッチ 4. 筋系 1) 筋組織の特徴とその組織の存在する臓器 2) 骨格筋の収縮と活動電位、等張性収縮、等尺性収縮 3) 神経筋接合部とアセチルコリンの作用 4) 体表面に近い主要な筋の名称			
評価方法	筆記試験 1, 2 (新藤講師分) 40点 3, 4 (宮越講師分) 60点		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)		

授業科目名	解剖生理学 IV	担当講師名	宮越 一穂
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	<p>看護に必要な人体の構造と機能を理解する。</p> <p>1) 日常生活を営むうえで、人体がどのような構造をもち機能しているかを理解する</p> <p>2) 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解する</p>		
授 業 内 容		備 考	
<p>1. 神経系</p> <p>1) 中枢神経と末梢神経</p> <p>2) ニューロンの基本的構造</p> <p>3) ニューロンの活動電位と他の神経細胞への伝導</p> <p>4) 神経伝達物質</p> <p>5) 体性感覚受容器</p> <p>6) 大脳、間脳、脳幹、小脳の機能 7) 脊髄の機能と構造</p> <p>8) 髄膜の構造 9) 脳脊髄液の産生と機能</p> <p>10) 脊髄伝導路 11) 脳神経の名称とその機能</p> <p>12) 交感神経と副交感神経の機能 13) レム睡眠とノンレム睡眠</p> <p>14) サーカディアンリズム</p> <p>2. 感覚系</p> <p>1) 眼球の構造</p> <p>2) 杵体と錐体の機能的違い</p> <p>3) 屈折、正視、近視、遠視、老視、盲点、眼圧</p> <p>4) 対光反射</p> <p>5) 外耳、中耳、内耳の構造と機能</p> <p>6) 静的、動的平衡覚</p> <p>7) 嗅覚と味覚の受容器</p> <p>8) 皮膚感覚の受容器</p> <p>3. 免疫系</p> <p>1) 皮膚と粘膜の防御機構</p> <p>2) 食細胞とNK細胞</p> <p>3) 細胞が産生する抗菌細胞</p> <p>4) 免疫の機序</p> <p>5) T細胞とB細胞、形質細胞 6) 抗原と抗体</p> <p>7) 能動免疫と受動免疫 8) 免疫グロブリン</p> <p>9) アレルギー反応</p>			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)		

授業科目名	生化学	担当講師名	山本 惠三
開講時期	1年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<p>看護学において、人体を維持する仕組みを理解する上で基本となる、化学的視点を養うことを目標とする。</p> <p>1. 生体を構成する分子の構造を生化学的な視点から理解する。</p> <p>2. 生体内で化学物質がどのように反応して生命を維持しているのかを理解する。</p>		
授 業 内 容		備 考	
<p>1. 生化学を学ぶための基礎的な化学的知識</p> <p>1) 原子と分子・化学結合</p> <p>2) 有機化合物</p> <p>3) 異性体</p> <p>2. 代謝の基礎・生体触媒としての酵素の働き</p> <p>1) 代謝の基礎</p> <p>2) 酵素・補酵素・補因子</p> <p>3) ビタミン</p> <p>3. 糖質</p> <p>1) 糖質の構造と機能</p> <p>2) 糖質の代謝</p> <p>4. 脂質</p> <p>1) 脂質の構造と機能</p> <p>2) 脂質の代謝</p> <p>5. タンパク質</p> <p>1) アミノ酸・タンパク質の構造と機能</p> <p>2) アミノ酸・タンパク質の代謝</p> <p>3) 酵素が関与する反応</p> <p>4) 翻訳と翻訳後修飾</p> <p>6. シグナル伝達</p> <p>1) シグナル伝達物質</p> <p>2) シグナル伝達の機序</p>		<p>基礎的な化学的知識を身につける</p> <p>代謝の全体像を理解する 栄養素</p> <p>炭水化物</p> <p>アミノ酸とは何か？ 必須アミノ酸</p> <p>タンパク質のできるまで</p>	
評価方法	<p>筆記試験</p> <p>小テストを行う場合があります。</p>		
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 (医学書院)</p> <p>プリントを配布します。</p>		

授業科目名	栄養学	担当講師名	吉田 有里
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	<p>栄養学は人間の健康づくりのための学問であり、その基礎知識を学習することは、臨床で応用する場合に必要な不可欠である。本講義では最新の栄養学的見地に基づいた栄養管理、栄養食事療法への理解を深めながら、適切な看護援助を行うために必要な栄養学の知識を取得する。</p>		
授 業 内 容		備 考	
1	ガイダンス／臨床栄養学の基礎知識	「解剖生理学Ⅱ」	
2	栄養素の種類と働き（1）	（栄養素の消化・吸収）	
3	栄養素の種類と働き（2）	「生化学」	
4	日本人の食事摂取基準	（栄養素の体内代謝）	
5	食文化・運動と栄養		
6	栄養アセスメント		
7	ライフステージに応じた健康生活と栄養（1）		
8	ライフステージに応じた健康生活と栄養（2）		
9	嚥下障害のある人の食事及び経管栄養と中心静脈栄養の管理と指導		
10	病院食：一般食、特別食、検査食	「病態生理学」	
11	疾患別食事指導の実際（1）：消化器系疾患	（各疾患の病態・生理・診断、消化機能障害、嚥下機能など）	
12	疾患別食事指導の実際（2）：内分泌、代謝疾患		
13	疾患別食事指導の実際（3）：循環器、腎疾患、その他		
14	食事指導の実際		
15	まとめ		
評価方法	筆記試験・小テスト・提出物		
教科書	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 メディカ出版		

授業科目名	微生物学	担当講師名	新藤 光郎
開講時期	1年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	病原微生物について、看護現場で必要な知識を身につけ看護現場での感染管理の実践に役立てる		
授 業 内 容		備 考	
1. 微生物とは 細菌とウイルスの相違点 2. 細菌の構造 グラム染色による分類 遺伝、エネルギー代謝など 3. 真菌ウイルスの構造 4. 感染経路 感染、伝染など 5. 生体防御（免疫について） 6. 消毒、滅菌、ワクチン 7. 検査法 感染症法 院内感染 8. 感染症治療（抗生物質） 9. 細菌各論 1) グラム陽性球菌 グラム陰性球菌 2) グラム陰性桿菌 3) グラム陽性桿菌 ピロリ菌 4) 嫌気性菌 マイコプラズマなど 10. ウィルス（DNAウィルス）各論 1 真菌 原虫 11. ウィルス（RNAウィルス）各論 2 プリオン病			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 (医学書院)		

授業科目名	病理学	担当講師名	小林 庸次
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	病理学は病気の原因、発生の機序、病気による臓器・組織の変化、その経過、予後を追求する学問である。病気の原因や各種疾患に共通する変化を学ぶことにより、病気への理解を深め、その治療、予防に対する基礎的知識を会得することを目標とする。		
授 業 内 容		備 考	
1 病理学とは 2 病気の原因（病因） 外因 内因、先天異常、遺伝性疾患 3 細胞・組織の損傷 萎縮、変性、壊死 4 代謝異常 脂肪・蛋白質・糖質の代謝異常など 5 適応現象と修復 肥大と過形成、化生、再生、治癒 6 循環障害 充血 鬱血 虚血 出血 血栓症 塞栓症など 7 炎症 炎症の原因、炎症の各型 8 免疫 液性免疫と細胞性免疫、免疫不全症など 9 感染症 おもな病原体と感染症 10 腫瘍 分類 組織学的特徴 転移 病気、発症原因、疫学 各種臓器の腫瘍 11 老化と死 老化に伴う変化、個体の死 12 各種疾患の病理 循環器疾患、消化器疾患など			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 (医学書院)		

授業科目名	病態生理学Ⅱ 消化器系 栄養・代謝系	担当講師名	①小味潤 智雄 ②新藤 光郎
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする。		
授 業 内 容		備 考	
① 消化器系 (22時間) 1 消化機能障害のメカニズム (1) 咀嚼・嚥下障害 (2) 消化吸収障害 (3) 肝機能障害 2 消化機能の検査 (1) 咀嚼・嚥下機能検査 (2) 画像診断 (腹部 X 線、CT) (3) 消化管内視鏡及び造影検査 3 消化器系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 口腔と食道の疾患 ①歯・口腔の疾患 ②咀嚼・嚥下機能の障害 ③食道癌 ④食道静脈瘤 ⑤食道胃逆流症 (2) 消化管の疾患 ①胃・十二指腸潰瘍 ②胃癌 ③大腸癌、大腸ポリープ ④クローン病 ⑤イレウス (3) 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患 ①肝炎 (アルコール性、劇症、ウイルス性) ②膵炎 ③肝硬変 ④肝不全 ⑤胆石症 ⑥胆汁代謝・排泄の障害 ⑦肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍 ② 栄養・代謝系 内分泌 (8時間) (1) 糖尿病 (2) 高脂血症 (3) メタボリック症候群 (4) 高尿酸血症、酸塩基平衡 (5) 内分泌疾患(甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎)			
評価方法	筆記試験 (配点: ①70点 ②30点)		
教科書	①系統看護学講座 成人看護学 消化器 (医学書院) ②系統看護学講座 成人看護学 内分泌・代謝 (医学書院)		

授業科目名	病態生理学Ⅲ 血液・造血器系 腎・尿路系 生殖器系	担当講師名	①新藤 光郎 ②久米田 靖郎 ③竹垣 嘉訓 ④中村 哲生
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする。		
授 業 内 容		備 考	
<p>① 血液・造血器系 (8時間)</p> <p>1 血液疾患総論</p> <p>2 貧血、血液型 輸血</p> <p>3 白血病 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫</p> <p>4 出血傾向をきたす疾患 I T P 血友病 D I C など</p> <p>② 腎・尿路系(8時間)</p> <p>1 腎の解剖 腎機能検査 尿異常 電解質異常</p> <p>2 急性腎不全の病態 ネフローゼ症候群 腎不全管理、腎生検</p> <p>3 慢性腎臓病の管理 I g A腎症 糖尿病性腎症など</p> <p>4 透析療法と合併症 腹膜透析と腎移植</p> <p>③ 生殖器系 (14時間)</p> <p><男性生殖器 (6時間) ></p> <p>1 男性生殖機能障害のメカニズム：勃起障害</p> <p>2 男性生殖器系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 前立腺癌、(2) 前立腺肥大(前立腺摘出術を含む) (3) 精巣腫瘍</p> <p>④ <女性生殖器 (8時間) ></p> <p>1 女性生殖機能障害のメカニズム (1) 月経困難症 (2) 更年期障害 (3) 自律神経失調症</p> <p>2 女性生殖機能の検査 (1) 内診 (2) 子宮鏡検査 (3) 細胞診 (4) 子宮卵管造影</p> <p>3 女性生殖器系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 子宮癌(子宮卵巣摘出術を含む) (2) 子宮筋腫 (3) 子宮内膜症</p>			
評価方法	筆記試験(配点： ①25点 ②25点 ③25点 ④25点)		
教科書	①系統看護学講座 成人看護学 血液・造血器 (医学書院) ②③系統看護学講座 成人看護学 腎泌尿器 (医学書院) ④系統看護学講座 成人看護学 女性生殖器 (医学書院)		

授業科目名	病態生理学Ⅴ 循環器系 感覚器系	担当講師名	①宮越 一穂 ②清水 奈美 ③米本由美子 ④宮田 哲史
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	各系統別に病態生理、検査・診断、治療などについて学び、疾病の特性を理解し看護を実践するための基礎とする。		
授 業 内 容		備 考	
①循環器系 (18 時間) 1 循環機能障害のメカニズム (1) 不整脈 (2) 血圧異常 (3) 心不全 2 循環機能の検査 (1) 心電図 (2) 心臓カテーテル検査・心血管造影検査 (2) 心臓超音波検査 (4) 胸部 X 線検査 (3) 血圧・動脈圧モニター 3 循環器系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 虚血性心疾患<狭心症 心筋梗塞> (2) 心筋症 (3) 心内膜炎と弁膜疾患 (4) 動脈硬化症 (5) 高血圧症 (6) 閉塞性動脈硬化症 (7) 大動脈瘤 (5) 静脈瘤 ② 皮膚 (4 時間) 1 皮膚機能障害のメカニズム (1) 蕁麻疹 (2) 発疹 (3) 掻痒 (4) 皮膚の老化 2 皮膚の検査：皮膚反応試験 (免疫・アレルギー検査) 3 皮膚機能障害の主な疾患の病態生理及び治療 (1) 接触性皮膚炎・蕁麻疹 (2) 熱傷 (3) 褥瘡 (4) 老人性掻痒症 (5) 感染症<疥癬> ③ 眼 (4 時間) 1 視機能の障害のメカニズム：(1) 視力障害 (2) 視野障害 2 視機能の検査：(1) 視機能検査 (視力・視野・眼球運動等) (2) 眼底検査 (3) 眼圧測定 3 視機能障害の主な疾患の病態生理および治療 (1) 白内障 (2) 緑内障 (3) 網膜剥離 (4) 老視 ④ 耳鼻咽喉 (4 時間) 1 聴覚・平衡感覚機能障害のメカニズム (1) 聴覚障害 (2) 平衡機能障害 2 聴覚・平衡機能の検査 (1) 聴力検査 (2) 平衡機能検査 3 耳鼻咽喉系の主な疾患の病態生理および治療 (1) 中耳炎 (鼓室形成術を含む) (2) 副鼻腔炎 (3) メニエール病 (4) 喉頭がん (手術療法を含む) (5) 老人性難聴 (6) 突発性難聴		・甲状腺切除術 ・ホルモン補充療法・抗ホルモン療法 「微生物学」との関連あり ・喉頭・咽頭切除術	
評価方法	筆記試験 配点：①55点 ②15点 ③15点 ④15点		
教科書	①系統看護学講座 成人看護学 循環器 (医学書院) ②系統看護学講座 成人看護学 皮膚 (医学書院) ③系統看護学講座 成人看護学 眼 (医学書院) ④系統看護学講座 成人看護学 耳鼻咽喉 (医学書院)		

授業科目名	薬理学	担当講師名	梶原 啓伯
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	臨床の現場で患者ケアのあたる看護師にとっては、「医薬品の作用機序、生体内の動態、有効性、安全性や投与方法など、薬理学的知識とその活用は必要不可欠となる。看護の実践の場で必要とされる臨床薬理学的基礎知識の習得を目指す。		
授 業 内 容			備 考
1. 薬理学総論 1) 薬理学とは何か 薬による病気の治療 薬が作用するしくみ (薬力学) 薬の体内の挙動 (薬物動態学) 薬物相互作用 薬効の個人差に影響する因子 薬物の有益生と危険性 2. 薬理学各論 1) 抗感染薬 2) 抗ガン剤 3) 免疫治療薬 4) 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 5) 自律神経作用薬 6) 中枢神経系に作用する薬物 7) 抗精神病薬 8) 心臓血管系に作用する薬物 9) 呼吸系・消化器・生殖器系に作用する薬物 10) 物質代謝に作用する薬物 11) 皮膚科用薬、眼科用薬、救急の際に使用される薬物 12) 漢方薬、消毒薬 13) 輸血剤 処方箋 添付文書			講義
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 (医学書院)		

授業科目名	医療概論	担当講師名	小味渕 智雄
開講時期	1年次前期	単位及び時間数	1単位 15時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> 現在の医療がどのように発展してきたかを理解するとともに、最新の画期的な新技術の活用によってもたらされた現代の医療を理解する 現代医療の諸問題について理解できる 		
授 業 内 容			備 考
<ul style="list-style-type: none"> 死の定義 脳死 臓器移植 安楽死 癌告知 死刑制度 健康の概念 疾病の概念 我が国の疾病構造 生活習慣病、癌の発生要因 医学と医療 原始的、古代、中世医学、医療の内容 現代医療の本質 医療需給体制の現状と整備の経過 医療の進歩と医の倫理 医の倫理に関わる歴史的あゆみ バイオエシックス 先端医療における倫理問題 遺伝子医療、出生前診断、生殖補助医療、再生医学 			講義
評価方法	筆記試験		
教科書	新体系 看護学全書 現代医療論 (メヂカルフレンド社)		

授業科目名	社会福祉 I	担当講師名	岡本 周佳
開講時期	1 年次後期	単位及び時間数	1 単位 15 時間
授業の目標及び概要	①看護職が社会福祉を学ぶ意味を理解し、社会福祉の考え方や視点を理解する。 ②現代社会や日常生活における社会問題に気付く力を養い、それらの問題に対応する法律や制度ならびに援助技術を学ぶ。		
授 業 内 容		備 考	
1 インTRODakシヨN 社会福祉と看護の接点—なぜ社会福祉を学ぶのか— 2 社会保障と社会福祉 3 社会福祉の思想 社会福祉を支える考え方 4 社会福祉の歴史的展開 古代～近代 5 社会福祉の歴史的展開 近代～現代 6 社会福祉の仕組み—法律、制度、実施体制— 7 社会福祉の分野と担い手 8 まとめ		配布資料 第 1 章 A、第 2 章 配布資料 第 9 章 配布資料 第 1 章 B 第 1 章 B、第 8 章 第 8 章 ・講義、個人ワーク、ペアワーク、グループワークなどを行う。積極的な参加が望ましい。	
評価方法	筆記試験(60%) 毎回の振り返り用紙 (小テスト含む) と授業参加度(40%)		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 (医学書院)		

授業科目名	公衆衛生学	担当講師名	吉川 賢太郎
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	30時間
授業の目標 及び概要	公衆衛生学の主目的は、人間集団と個人の健康の維持・増進と疾病の予防を図ることである。集団と個人の健康やQOLを維持・改善する能力の向上と人々の生命の延伸を行うための知識・技術を学ぶ。		
授 業 内 容		方法・【関連科目】	
<ul style="list-style-type: none"> ① 公衆衛生とは 公衆衛生の歴史 健康の概念 ② 公衆衛生の活動対策 ③ 公衆衛生のしくみ ④ 疫学概念と歴史 疾病・死亡の指標 ⑤ 疫学の効果指標 疫学研究のデザイン（種類） ⑥ 検査の指標とスクリーニング 統計解析の基礎 ⑦ 人口静態統計・人口動態統計 ⑧ 死因統計・疾病統計 ⑨ 環境と健康 ⑩ 感染症と予防対策 ⑪ 食品と健康 ⑫ 学校と健康 ⑬ 地域における公衆衛生の実践 公衆衛生看護とは 母子保健・成人保健・その他 ⑭ 職場と健康 ⑮ 健康危機管理・災害保健 		<p>パワーポイントやプリントを使用し、掲示説明をしていく予定</p> <p>【関連科目】</p> <p>社会保障論 医療概論 微生物学 看護学概論 I 成人看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論 在宅看護概論 災害看護</p>	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 (医学書院) 国民衛生の動向		

授業科目名	看護学概論 I	担当講師名	高岡 操
開講時期	1 年次 前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	この授業では、看護の考え方、とらえ方を学ぶ。看護についての考え方、捉え方を学んでいく中で、「普遍的な看護」を理解し、自己の看護観の形成へとつなげていくことを目的とする		
回	授業内容	キーワード	備考
1	I 看護とは① 看護のイメージ		グループワーク
2	看護とは② 看護が行われている場	病院 施設 産業 学校 地域など	講義
3	II 人間にとっての健康とは	健康の概念 ウェルネス ウェルビーイング PHC ヘルスプロモーション、ネガティブ・ポジティブヘルス QOL	グループワーク
4	III 看護の対象	個人 家族 組織 地域	講義
5	III 看護の歴史とその発展	職業的看護の確立 日本における看護職の確立	グループワーク
6		発表	講義
7	IV 看護に求められる役割と機能	自然治癒力 セルフケア コンプライアンス アドヒアランス	講義
8		ナイチンゲール ヘンダーソン オレム ニードの充足	講義
9	V 看護実践の方法①	経験知 科学的根拠 ベナー クリティカルシンキング	講義
10	看護実践の方法②	人間関係技法 問題解決技法 看護過程 トラベルビー ペプロー レイニンガー ワトソン ケアリング	講義
11	VI 看護と倫理	基本的人権 自己決定	講義
12		看護者の倫理綱領	発表
13			
14	X 看護の展望～看護に期待されているもの～	認定看護師 専門看護師 特定看護師	グループワーク
15			発表
評価方法	筆記試験 グループワーク等の発表 レポート		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 看護学概論(医学書院) よくわかる看護者の倫理綱領(照林社) 看護覚え書(現代社) 看護の基本となるもの(日本看護協会出版社) 新版看護者の基本的責務(日本看護協会出版社)		

授業科目名	基礎看護技術 I	担当講師名	山内 雅子 夜久 直也
開講時期	1 年次 前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	この授業では看護技術の、環境の整備、安全の守り方、安楽な技術の提供の方法、感染予防の基礎技術を学ぶことを目的とする。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	I 看護技術とは	技術 技能 再現性 応用性	講義
2	II 安楽に援助する技術	ボディメカニクス トルク てこ	DVD
3	安楽な体位とボディメカニクス	手順書 手順 留意点 根拠	学内演習
4	III 環境を整える技術①	ベッドメイキング	学内演習
5			
6	環境を整える技術②	環境 ナイチンゲール	講義
7	環境を整える技術③	環境整備	学内演習
8	環境を整える技術④	患者の体位 患者の安全 皮膚の落屑	学内演習
9	就床患者のシーツ交換	観察	GW
10	IV 感染と感染予防①	スタンダードプリコーション ユニバーサルプリコーション 日常的手洗い 衛生的手洗い 手術的手洗い 防御用具 感染経路予防策	講義
11	感染と感染予防② 消毒と滅菌	消毒 滅菌 無菌	講義
12	感染と感染予防③ ガウンテクニック、無菌操作 滅菌手袋装着	ガウンテクニック 無菌操作 滅菌手袋装着	学内演習
13	感染と感染予防④ 病院における感染予防対策	院内感染予防	講義 ※夜久講師
14	安全管理の技術①	看護事故と医療事故 医療過誤	講義
15	安全管理の技術②	事故予防策	GW
評価方法	筆記試験 80 点 技術試験 20 点		
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術 I・II (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院) 看護覚え書 (現代社)		

授業科目名	基礎看護技術Ⅱ コミュニケーション 学習支援	担当講師名	上田智恵美
開講時期	1年次前後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<p>1 人間関係づくりの基礎となるコミュニケーションに関する理論を理解し、効果的なコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>①看護におけるコミュニケーションの意義と特性を説明できる。</p> <p>②場に応じたコミュニケーション技術を身につける。</p> <p>2 看護における教育的支援の目的を理解し、効果的なアプローチの方法を学ぶ。</p> <p>①対象者に応じた生活指導案が作成できる。</p> <p>②作成した指導案を共有できる。</p>		
	授業内容	キーワード	備考
1	コミュニケーションの概念、種類	看護学で学ぶ意味 一方通行と双方向	講義 演習
2	コミュニケーションの基本原理・要素	表現装置（言語的要素、準言語的要素、非言語的要素） ミスコミュニケーション	
3	コミュニケーションを円滑にするための基本的態度	接近的行動・非接近行動	
4	コミュニケーション自己開示	ジョハリの窓、自己理解他者理解	
5	コミュニケーションに必要な能力①	傾聴、コーチング	
6	コミュニケーションに必要な能力②	質問、アサーション	
7	コミュニケーション障害への対応	失語症、構音障害	
8	対人関係の振り返り①	ロールプレイ	
9	対人関係の振り返り②		演習
10	対人関係の振り返り③	プロセスレコード	
11	対人関係の振り返り④		演習
12	看護における学習支援	患者教育の変遷	講義
13	対象に応じた学習支援	アクティブラーニング	GW
14	対象に応じた学習支援の実践と共有	ルーブリック評価	発表
15	対象に応じた学習支援の実践と共有		発表
評価方法	筆記試験 80% 演習 15%（ロールプレイ、プロセスレコード、学習支援） 出席点 5%		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）		

授業科目名	基礎看護技術Ⅲ (活動、休息、食事、排泄)	担当講師名	井手窪 澄子
対象学生	1年生 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 および概要	1. 人間の活動と休息を理解し、対象が健康生活を送るために必要な援助を理解する 2. 栄養と食事のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法を理解する 3. 食事行動や健康のレベルなどに応じた栄養と食事のニーズを充足させる効果的な看護技術を習得する 4. 人間の排泄を理解し、患者が健康的な生活を送るために必要な排泄技術を習得する		
回	授 業 内 容	キ ー ワ ー ド	
1	活動と休息の意義、活動と運動のアセスメント、体位変換の目的と留意点、移動・移送の方法	活動、休息、廃用性症候群、体位変換	
2			
3	【演習】体位変換、移動、移送	支持基底面、重心、摩擦力	
4	睡眠・休息の援助、苦痛の緩和・安楽確保の技術	サーカディアンリズム、ポジショニング、電法	
5	食事と栄養の意義、食生活と栄養状態のアセスメント、経口摂取ができる患者の食事介助	BMI、血液検査データ、摂食・嚥下のメカニズム 食事の種類、食形態	
6			
7	【演習】食事介助	誤嚥の予防、スプーンテクニック、口腔ケア	
8	非経口栄養法の種類と方法	経管栄養法、中心静脈栄養法	
9	排尿・排便の意義、排尿・排便のアセスメント	失禁パターン、ブリストルスケール	
10	排泄援助の方法	おむつ交換、陰部洗浄	
11	【演習】排泄援助の実際（おむつ交換、尿器、差し込み便器）	ポータブルトイレ、差し込み便器、尿器	
12	排泄に関する処置技術①	浣腸、摘便	
13	排泄に関する処置技術②	一時的導尿、持続的導尿	
14	【演習】一時的導尿	滅菌操作、感染防止、羞恥心	
15	基礎看護技術Ⅲのまとめ	まとめ	
評価方法	筆記試験 100%		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)		

授業科目名	基礎看護技術Ⅳ(生活援助技術) 清潔	担当講師名	徳田 薫
開講時期	1 年次前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	身体を清潔に保つことは、人間が健康で生活するためには不可欠である。ここでは、清潔の意義を身体的、精神的、社会的な側面から理解し、援助する方法を習得する。 1) 清潔、衣生活の意義とその援助の目的を理解する 2) 清潔、衣生活の援助技術を習得する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	清潔の意義 皮膚粘膜の機能 清潔行動・清潔保持の方法 入浴	皮膚の機能 清潔の意義目的 快の刺激 清潔行動 入浴 静水圧 浮力作用	講義 GW
2	口腔の清潔の意義、目的、方法	口腔の構造 含嗽 歯磨き	講義 DVD
3	口腔の清潔 演習	ガーグルベースン 口腔ケア 義歯	実習室演習
4	部分浴(手浴・足浴)の意義、目的 方法	清潔と洗浄 安楽 安全 湯の取扱い ベースン ピッチャー	講義
5	手浴 演習	リラクゼーション 足の観察 末梢循環不全	実習室演習
6	足浴 演習		実習室演習
7	衣生活と寝衣交換の意義、目的、方法	外部環境 適応 自己表現 社会生活 寝衣 褥瘡予防 安楽	講義 DVD
8	寝衣交換 演習		実習室演習
9	全身清拭の意義、目的、方法	感染予防 血液循環 爽快感 皮脂膜 清潔 安全 安楽	講義 DVD
10	全身清拭 演習		実習室演習
11			
12	整容の意義・洗髪、陰部洗浄の意義、 目的、方法	身だしなみ 頭皮 毛髪 陰部の清潔 陰洗ボトル 紙オムツ 体位保持	講義 DVD
13	陰部洗浄 演習	ケリーパッド 洗髪車 洗髪台	実習室演習
14	洗髪 演習	体位保持	実習室演習
15			
評価方法	筆記試験 70 点 技術試験 20 点 出席・レポート提出 10 点		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)		

授業科目名	基礎看護学技術V バイタルサイン フィジカルアセスメント	担当講師名	①高田 紳吾	
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間	
授業の目標 及び概要	1. ヘルスアセスメント（フィジカルアセスメント）の意義と根拠が理解できる 2. 一般状態の観察、バイタルサインを測定することの意義と根拠が理解できる 3. バイタルサイン（呼吸・体温・脈拍・意識）を正確に測定できる 4. フィジカルイグザミネーションが正確に実施できる			
回	授業内容	キーワード	備考	
1	ヘルスアセスメントの意義と根拠	ヘルスアセスメントとは	講義	
2	フィジカルアセスメントの意義と根拠	フィジカルアセスメントとは		
3	一般状態のアセスメント （バイタルサイン）	バイタルサイン 生命徴候		
4	一般状態のアセスメント （体温のアセスメント） （意識状態のアセスメント）	JCS 体温の正常・異常 体温の影響因子		
5	一般状態のアセスメント （呼吸のアセスメント）	呼吸の正常・異常 呼吸の影響因子 血中酸素飽和濃度（SpO ₂ ）		
7	一般状態のアセスメント （脈拍のアセスメント）	脈拍の正常・異常 脈拍の影響因子		
8	一般状態のアセスメント （血圧のアセスメント）	血圧の正常・異常 血圧の影響因子		
9 10	バイタルサイン測定の実際			演習
11 12	フィジカルイグザミネーションの基本技術	問診 聴診 触診 聴診 打診		講義
13 14	フィジカルイグザミネーションの実際	呼吸器・循環器 （呼吸音 心音） 消化器（腸蠕動音 腹部）	演習	
15	フィジカルアセスメントの実際	事例学習	講義	
評価方法	技術試験 20点、筆記試験 80点			
教科書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院） フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院）			

授業科目名	基礎看護技術VI (看護過程)	担当講師名	東浦龍至
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> 科学的思考・問題解決思考に基づく看護過程の展開における思考が理解できる ゴードンの機能的健康パターンによる看護診断に基づいた看護過程を理解し、対象者のニーズを満たすための看護過程の展開方法が理解できる 		
回	授業内容	キーワード	備考
1	看護過程の概念	講義の進め方・看護過程の必要性・構成要素	講義 及び 演習
2	ゴードンの機能的健康パターン	各パターンの考え方・内容・分析方法	
3	看護過程の展開 事例1	情報の整理・アセスメント	
4		関連図	
5		統合アセスメント・看護診断	
6		優先順位・看護計画	
7	看護過程の実際 事例2	事例提示 アセスメント・関連図	
8		看護診断	
9		優先順位・看護計画の立案	
10		実践の内容・評価基準について	
11		看護計画に基づいた実践	
12			
13		評価	
14		計画の追加修正・総括について	
15	記録と報告	看護記録の実際・報告の必要性など	
評価方法	紙上事例レポート 筆記試験		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術 I (医学書院) ゴードン 看護診断マニュアル (医学書院)		

授業科目名	基礎看護技術Ⅶ	担当講師名	山内 雅子
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	1. 検査の基礎知識、検査における看護師の役割を学ぶ。 2. 与薬における基礎知識を学び、安全かつ正確に行う技術を習得する。 3. 治療・処置時の対象者の心理と看護者の役割を学ぶ。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	検査の意義 基本 看護師の役割	説明と同意	講義 GW DVD
2	検査に伴う看護技術 援助の実際Ⅰ	感染	
3	検査に伴う看護技術 援助の実際Ⅱ	無菌操作 安全 安楽	
4	検査技術Ⅰ 静脈内採血（注射器） （手順・留意点・看護師の役割）	原理 原則	学内演習
5			
6	検査に伴う看護技術Ⅲ 生体情報のモニタリング	侵襲	講義 DVD
7	検査に伴う看護技術Ⅳ 検査・処置の介助技術	被爆 穿刺	GW
8	与薬に関する基礎知識Ⅰ 与薬の基礎知識と看護師の役割	毒薬・劇薬・麻薬	講義 GW
9	与薬に関する基礎知識Ⅱ 援助の基礎知識 輸血管理	安全 安楽	DVD
10	与薬に関する基礎知識 注射法とは 薬液の吸い上げ	原理原則 6R	講義 DVD
11	与薬の技術Ⅰ 点滴静脈内注射 （手順・留意点・看護師、患者の役割）	無菌操作	学内演習
12			
13	筋肉内・皮下、皮内注射 （手順・留意点・看護師の役割）	筋肉内注射 濃度計算	講義 DVD
14	与薬の技術Ⅱ 筋肉内注射 （手順・留意点・看護師、患者の役割）	ホッホシュテッター クラークの点	学内演習
15			
評価方法	筆記試験 授業内小テスト		
教科書	1) 系看護学講座 基礎看護技術Ⅱ （医学書院） 2) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 （医学書院）		

授業科目名	基礎看護技術Ⅷ	担当講師名	①辻野美嘉 ②村上巖
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	1. 救急時、終末期における看護の役割を理解し、必要な基礎的な技術を修得する 2. 効果的な呼吸への援助方法を習得する 3. 安全・安楽な罨法の援助方法を習得する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	体温を調整する技術①	冷罨法、温罨法①	講義
2	体温を調整する技術②	冷罨法、温罨法②	学内演習
3	創傷管理①	皮膚の解剖・生理、創傷の治癒過程	講義
4	創傷管理②	創傷治癒の促進への援助	講義
5	創傷を管理する技術①	包帯法	講義
6	創傷を管理する技術②	包帯法	学内演習
7	呼吸を楽にする技術①	酸素吸入	講義
8	呼吸を楽にする技術②	酸素ボンベ CPS	学内演習
9	呼吸を楽にする技術③	体位ドレナージ	講義
10	呼吸を楽にする技術④	気管内吸引	学内演習
11			
12	救急時における看護の役割	一次救命処置の方法	講義
13	一次救命処置の実際	気道の確保 心マッサージ 人工呼吸 AED	学内演習
14			
15	終末期における看護の役割	死後の処置	講義
評価方法	筆記試験 ①90点 ②10点 (3・4回目)		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)		

授業科目名	臨床看護総論	担当講師名	辻野 美嘉
対象学生	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	<p>1. 多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶ。</p> <p>2. 看護者に求められる問題解決能力の基礎を学習することで、主体的学習行動を習得することができる。</p>		
回数	講義内容	キーワード	備考
1	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	マズロー、エリクソン	講義、個人ワーク、グループワーク
2		病院と施設、在宅における看護	
3	健康状態の経過に基づく看護	健康、急性期	講義、個人ワーク、グループワーク
4		急性期、危機モデル	講義、個人ワーク、グループワーク、DVD
5		リハビリテーション期	講義、個人ワーク、グループワーク、
6		慢性期、病みの軌跡	講義、個人ワーク、グループワーク、DVD
7		終末期、死の受容段階、悲嘆	
8	主要な症状を示す対象者への看護	呼吸、循環、栄養・代謝、排泄、活動・休息、安全・生体防御機能、安楽に関連する症状を示す対象者への看護	プロジェクト学習、ポートフォリオ 個人ワーク【準備】
9			個人ワーク【情報リサーチ】
10			個人ワーク【制作】
11			
12			グループワーク 【プレゼンテーション】
13			個人ワーク【再構築・成長確認】
14	治療・処置を受ける対象者への看護	安静、輸液療法	講義、個人ワーク、グループワーク
15		手術療法、化学療法、放射線療法	
評価方法	筆記試験・ポートフォリオ・レポート・グループワーク		
教科書	系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論 (医学書院)		

授業科目名	成人看護学概論	担当講師名	高田 紳吾
開講時期	1年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	1.成人の身体的・心理的・社会的側面からとらえ、個人およびその家族の発達段階と発達課題を統合的に理解できる 2.学習者としての成人の特徴をとらえ、健康教育や患者教育の基礎が理解できる 3.成人の生活に焦点を当て、成人期にみられる健康障害や成人の看護に有用な概念について理解できる		
回	授業内容	キーワード	備考
1	成人看護学概論とは	大人とは、成長・発育、社会化 成長発達段階と発達課題	講義 及び 演習
2	青年期の特徴	青年期の身体・精神・社会的特徴 青年期を取り巻く環境、健康問題	
3	壮年期・向老期の特徴	壮年期・向老期の身体・精神・社会的特徴 壮年期・向老期を取り巻く環境、健康問題	
4	家族とは	成人と家族、家族の機能と現代における変化	
5	成人の生活の特徴①	成人の生活とは、成人にとって社会とは	
6	成人の生活の特徴②	仕事とは何か、社会環境の変化と生活への影響、 ワークライフバランス	
7	大人の健康状況①	大人の暮らし、社会の変化と健康への影響	
8	大人の健康状況②	大人にとっての健康とは、健康の捉え方	
9	保健・医療・福祉システム①	社会環境の変化と取り組みと看護 (健康日本 21、がん対策基本法など)	
10	保健・医療・福祉システム②		
11	大人の学習 ストレス①	大人の学習の特徴、アンドラゴジー、行動形成	
12	大人の学習 ストレス②	ストレスとは、コーピングプロセス	
13	意思決定支援・危機	患者の権利擁護、危機的状況と意思決定支援	
14	セルフケア 自己効力感	セルフケアとは、セルフマネジメント、 自己効力 QOL	
15	エンパワメント	エンパワメントエデュケーション	
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院)		

南大阪看護専門学校

2020 年度 シラバス

2 年次

授業科目名	人間関係論	担当講師名	高橋 千津子
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	人間と人間の相互関係や看護に焦点をあてた人間関係の特性について学び、ノンバーバルコミュニケーションやカウンセリングの技術を身につける。また、実際の人間関係や看護場面に応用できる臨床的な心理学の知見について学ぶ。		
授 業 内 容			備 考
1 人間関係の意義 人間関係と看護 人間関係の発達と発達段階 2 人間関係の社会心理 対人魅力と原因帰属 ノンバーバルコミュニケーション(カウンセリングの技法) 3 センシティブティトレーニング 4 心の障害とその治療 ストレスと不応・コーピング・防衛機制 精神病理 心理療法・行動療法			講義 実技 ビデオ
評価方法	筆記試験		
教科書	テキスト心理学 (ナカニシヤ出版)		

授業科目名	教育学	担当講師名	上田 勝江
開講時期	2年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<p>教育に関わる課題が、社会の変容とともにいかに変化してきたのかを具体的な事例から学びます。</p> <p>この授業では、①教育学に関する知識を得ること、②多様な視点を持って考えるようになること、③それらを的確に伝えるスキルを高めることを目的とします。</p>		
授業内容		備 考	
1 オリエンテーション/教育学を学ぶ意義 2 日本の教育と歴史 3 海外ではどのような教育が行われているのか 4 ジェンダーと教育について I 5 ジェンダーと教育について II 6 家族の子育てと子どもの虐待 7 子どもの貧困と学力について I 8 子どもの貧困と学力について II 9 少年非行は増加しているのか 10 学校へ行かない子どもたち 11 いじめはなぜおこるか 12 子どもの対人関係の変容 13 マイノリティと子どもの教育 I 14 マイノリティと子どもの教育 II 15 復習		・講義およびグループワークを行う。 ・ディスカッションを行い発表する。	
評価方法	毎回の提出物と授業参加度・・・50点 (コメントカードの内容、グループワークに積極的に参加すること) 期末テスト・・・・・・・50点		
教科書	毎回レジメを配布		

授業科目名	社会福祉Ⅱ	担当講師名	岡本 周佳
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	この授業では、社会福祉の考え方について、現代の社会状況や生活・暮らしの視点から理解を深めます。 本授業の目標は、①福祉的な視点を理解し、専門職として現場で応用できるようになること、②社会福祉領域との連携への素地をつくること、です。		
授業内容		備考	
1 現代社会の動向と社会福祉 人口の変化、地域・家族の変化、経済状況の変化		教科書第2章	
2 社会福祉の法体系、組織と実施体制		教科書第1章B	
3～4 映画鑑賞・授業内レポート			
5 社会福祉援助技術の理論と方法 ケースワークの展開過程、バイスティックの7原則 エンパワメント、ストレンクス視点、アドボカシー		教科書第8章	
6～7 低所得者福祉		教科書第6章	
8～9 児童家庭福祉		教科書第7章C	
10～11 障害者福祉		教科書第7章B	
12 高齢者福祉		教科書第7章A	
13 小テスト・地域福祉		配布資料	
14～15 その他の社会福祉をめぐる課題と事例検討		配布資料	
【関連科目】 社会保障論、関係法規、公衆衛生学、在宅看護概論など		・講義、個人ワーク、グループワーク、ディスカッションなどを行う。 積極的な参加が望ましい。	
評価方法	筆記試験(50%) 授業内レポート (10%) 小テスト (10%) 毎回の振り返り用紙と授業参加度(30%)		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 (医学書院)		

授業科目名	社会保障論	担当講師名	新田 正尚 酒井 哲雄
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 15時間
授業の目標及び概要	この授業では、社会保障制度の目的、機能、範囲、歴史、組織、財政等について学習する。とくに、看護の分野では医療保険、介護保険、年金制度についての理解が必要であり、基本的な仕組みなど具体的に学び、看護の対象を支えている社会保障制度の概観をつかむことを目的とする。		
授 業 内 容		備 考	
<p>1 社会保障の理念</p> <p>日本の保健医療福祉活動の基本方向</p> <p>概念 目的 機能 体系 内容 人権 日本国憲法 25条</p> <p>倫理 ノーマライゼーション 情報公開 地方分権 参加</p> <p>社会保障給付費 社会保障制度改革</p> <p>2 社会保障制度</p> <p>1)社会保険の変遷</p> <p>歴史、意義 国民皆保険 皆年金</p> <p>2) 医療保険制度</p> <p>保険診療の仕組み</p> <p>医療保険の財政 診療報酬制度 国民医療費</p> <p>保険給付と利用者負担 給付の内容</p> <p>医療保険の種類</p> <p>健康保険、国民健康保険と高齢者の医療制度</p> <p>3) 介護保険制度</p> <p>制度の基本理念</p> <p>制度の仕組み</p> <p>介護保険の財政 介護保険事業計画</p> <p>保険者・被保険者 要介護・要支援の認定</p> <p>保険給付と利用者負担</p> <p>給付の内容</p> <p>ケアマネジメント</p> <p>4) 年金制度</p> <p>制度の体系 給付と費用負担</p> <p>5) その他の社会保険制度</p> <p>雇用保険法 労働者災害補償保険法</p>		<p>【関連科目】</p> <p>社会福祉Ⅰ Ⅱ</p> <p>関係法規</p> <p>公衆衛生学</p> <p>老年看護学概論</p> <p>在宅看護概論</p>	
評価方法	筆記試験		
教科書	よくわかる社会保障 (ミネルヴァ書房)		

授業科目名	関係法規	担当講師名	朽木 悦子 高橋 育美
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 15時間
授業の目標及び概要	<p>看護職を取り巻く行政法・社会法の分野は、国民のニーズの変化に伴い、日々変化してきており、「看護」の現場を取り巻く医療法規の解釈は、看護業務の適切な履行、事故防止、また事故への対処において重要な要素である。</p> <p>本授業では、保健師助産師看護師法を中心に、医療法、保健衛生法規、労働関係法規の概要を学び、看護職を取り巻く法的背景を理解する。</p>		
授 業 内 容		備 考	
<p>1. 法の概念 法律の概要、衛生法、衛生行政体制、WHO</p> <p>2. 看護法 ①保健師助産師看護師法 目的、沿革、定義、免許、業務、研修、義務、医療過誤 ②看護師等の人材確保の促進に関する法律 目的、人材確保の為の措置、ナースセンター、離職届</p> <p>3. 医事法 ①医療法 沿革、目的・定義、選択の支援、医療安全、開設、管理、人員、構造設備、記録、医療計画 ②医療関係者資格法 医師法、歯科医師法</p> <p>4. 保健衛生法 【高橋担当】 ①地域保健法、健康増進法、 ②分野別保健法 母子保健・精神保健福祉・感染症・予防接種・検疫 がん・肝炎・自殺・難病・災害・食品衛生</p> <p>5. 労働法・社会基盤整備 労働基準法、労働安全衛生法、過労死防止対策推進法 石綿被害救済法、育児・介護休業法、男女共同参画社会法、DV法、個人情報保護法</p>		<p>【関連科目】 社会福祉ⅠⅡ 社会保障論 看護の統合と実践</p>	
評価方法	筆記試験		
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 (医学書院) 私たちのよりどころ保健師助産師看護師法 (日本看護協会出版会) 図説国民衛生の動向 2019/2020</p>		

授業科目名	看護学概論Ⅱ	担当講師名	高岡 操
開講時期	2年次 前期	単位及び時間数	1単位 15時間
授業の目標 及び概要	看護理論の変遷を学び、看護理論家を通じて看護の本質とは何かを考える姿勢を身につける 看護研究の基礎的知識を学び、看護実践を通じて研究的視点を広げる		
回	授業内容	キーワード	備考
1	看護理論とは 看護理論の歴史と変遷 理論の重要性・看護理論の分類	看護理論の誕生 理論の発展過程 概念モデル・大理論 中範囲理論・実践理論	講義
2	主な理論家とその理論概要 (1) F・ナイチンゲール	看護覚え書 臨床看護の本質 セルフケア 基本的ニード 人間関係理論 看護の探求	文献学習 グループワーク 発表
3	(2) A・ウィーデンバック (3) V・ヘンダーソン (4) D・Eオレム (5) H・E・ペプロウ		
4	(6) J・トラベルビー (7) A・Jオーランド (8) A・E・ロジャース (9) P・ベナー		
5	研究的取り組み		
6	(1) EBN 根拠に基づいた看護実践		
7	(2) 看護研究における倫理的問題と対応 (3) 文献検索について (4) 看護研究の方法	研究の意味、FBN、研究になるもの、ならないもの 生命倫理、インフォームド コンセント、個人情報保護、 モラル研究デザイン、 研究計画書、 ケースレポートの構成、 ケーススタディ	グループワーク 講義
8	(5) 研究計画書の書き方 (6) 発表論文の書き方		
まとめ	基礎看護学実習Ⅱで受け持った患者の看護実践を振り返り、看護の本質を考察する。(レポート課題、発表)	※教科外活動	個人ワーク 発表
評価方法	筆記試験 グループワーク等の発表 レポート		
教科書	○新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論 ○看護理論「看護理論 20 の理解と実践への応用」南江堂 ○系統看護学講座別巻「看護研究」医学書院		

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ	担当講師	高岡 操 ほか
対象学生	2年次前期	単位及び時間数	2単位 90時間

基礎看護学実習Ⅱ

【実習目的】

1. 基礎看護学で習得した基礎看護技術を用い、一連の看護過程に沿って対象の看護が展開できる
2. 看護学生としての責任と看護職としての倫理について学ぶことができる

【実習目標】

1. 対象を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる
2. 対象に必要な看護が実践できる
3. 対象者と援助的関係を構築することができる
4. 看護者としての倫理、実践する者としての責任を自覚し、看護学生として基本的な実習態度を身につけることができる

授業科目名	成人看護学方法論 I	担当講師名	①高田 紳吾 ②樋口 雄之輔	
開講時期	2 年次前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間	
授業の目標 及び概要	1. 急性・重症看護をもとに、生命の危機状況への支援、合併症の予防、回復への援助について学ぶ 2. 疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ			
回	授業内容	キーワード	備考	
1	急性・重症看護の特徴	アギュララ・フィンの危機理論	講義 及び 演習	高田
2		急性期看護の特徴と役割		
3	呼吸機能低下のある患者の看護	呼吸器の構造と機能、検査・治療の看護 (呼吸機能検査と血液ガス分析、胸腔ドレナージ)		
4		肺腫瘍患者の看護、気胸・開胸手術		
5		呼吸機能低下のある患者の看護		
6		(呼吸機能のアセスメント、看護過程)		
7		※慢性閉塞性肺疾患の事例展開		
8		虚血性心疾患患者の看護		
9	虚血性心疾患患者の看護	虚血性心疾患を持つ患者の看護 解離性大動脈瘤、動脈閉塞症		
10	不整脈のある患者の看護	不整脈のある患者の看護 弁膜症		
11	心機能低下のある患者の 看護	心機能低下のある患者の看護		
12		(循環機能のアセスメント、看護過程)		
13		※心不全の事例展開		
14	救急看護	二次的救急処置 (ACLS)、ショックへの対応、急性膵炎、熱傷、気道熱傷、一酸化炭素中毒		
15				
評価方法	①90 点 (筆記試験、レポート課題) ②10 点 (筆記試験)			
教科書	系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院) 系統看護学講座 呼吸器 成人看護学② (医学書院) 系統看護学講座 循環器 成人看護学③ (医学書院) ゴードン看護診断マニュアル (医学書院)			

授業科目名	成人看護学方法論Ⅱ	担当講師名	東浦 龍至
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	1. 手術を受ける患者・家族に対する生命維持、苦痛の緩和、早期回復に向けた看護について学ぶ 2. 手術による身体侵襲とボディイメージの変化を理解し、手術後の機能障害に対する援助や手術後の継続的な自己管理に対する援助を学ぶ		
回	授業内容	キーワード	備考
1	周手術期の看護	手術侵襲	講義
2	周手術期の特徴と看護の特徴 手術前看護	術前処置 術前訪問	
3	手術中看護	手術室看護	
4	手術後看護 術後合併症の予防	回復の促進 早期離床 ドレーン管理	
5		縫合不全 術後イレウス	
6	開腹術と腹腔鏡手術	開腹術 腹腔鏡下手術	
7	食道癌患者の看護	集学的治療	演習
8	大腸癌患者の看護	排便コントロール	
9	人工肛門造設患者の看護	ストマ ボディイメージ	
10	胃癌患者の看護（看護過程）	術後合併症	
11	発症から社会生活復帰までの過程における看護を展開する	ダンピング症候群	
12		早期離床	
13		食事指導	
14			
15			
評価方法	筆記試験 70点 レポート 30点		
教科書	系統看護学講座 成人看護学 消化器（医学書院） 系統看護学講座 臨床外科看護総論（医学書院） ゴードン 看護診断マニュアル（医学書院）		

授業科目名	成人看護学方法論Ⅲ	担当講師名	高田紳吾
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	1. 慢性疾患など生涯にわたりコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知りその状況に応じた看護の役割と方法を学ぶ 2. 疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ		
回	授業内容	キーワード	備考
1	慢性疾患の特徴	疾患・治療の特徴とセルフマネジメント	講義及び演習
2	セルフマネジメントの援助方法	対象理解とセルフマネジメント支援	
3		自己効力感、エンパワメント	
4	内部環境調整機能障害のある患者の看護①（肝機能障害）	肝炎・肝硬変の看護	
5		原発性肝癌の治療と看護 門脈圧亢進症・食道静脈瘤の看護	
6		食事療法、薬物療法	
7	内部環境調整機能障害のある患者の看護②（代謝機能障害・糖尿病）	内部環境調整機能障害のある患者の看護 （代謝機能のアセスメント、看護過程） ※糖尿病患者の事例展開	
8			
9			
10			
11	腎不全の看護	急性腎不全の症状と看護	
12		慢性腎不全の症状と看護	
13		病期に応じた腎不全の看護	
14	甲状腺機能異常の看護	甲状腺機能障害低下症、バセドウ病	
15			
評価方法	レポート課題、筆記試験		
教科書	系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学①（医学書院） 系統看護学講座 消化器 成人看護学⑤（医学書院） 系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学⑥（医学書院） 系統看護学講座 腎泌尿器 成人看護学⑧（医学書院） ゴードン看護診断マニュアル（医学書院）		

授業科目名	成人看護学方法論Ⅳ	担当講師名	村上 巖 山内 雅子
開講時期	2年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	1. リハビリテーション期における患者の身体的、心理的、社会的な側面について学ぶ。 2. 疾患によって起こる患者の症状や、看護について学ぶ。		
回	授業内容	キーワード	備考
1	リハビリテーション期の概念と特徴	国際生活機能分類	講義 DVD
2	脳・神経系の疾患をもつ	ADL、自立、セルフケアの再獲得	GW
3	リハビリテーション期患者の看護	残存機能、生活の再構築	学内演習
4	(事例で考える/脳血管疾患・脊髄損傷患者)	廃用症候群の予防	
5		居住環境、補助具	
6	脳・神経系の症状・障害をもつ	心理的葛藤	講義
7	リハビリテーション期患者の看護	多職種連携、社会資源の活用	GW
8		障害のある人の余暇活動	学内演習
9	排泄機能障害の治療と看護①	1. 膀胱癌、前立腺肥大 2. TUR-BT、3. 尿路再建術と管理への支援	講義 (村上講師)
10	排泄機能障害の疾患と看護②	1. 大腸癌 2. 人工肛門造設術と管理への支援	
11	視覚障害のある患者の看護	生活への影響	講義
12	生殖機能障害のある患者の看護		GW
13	乳がん患者の看護	リンパ浮腫 手術後の生活	DVD 発表
14	乳がん手術後の合併症予防①	乳がん手術後のリハビリテーション	
15	乳がん手術後の合併症予防②	パンフレット 生活指導	
評価方法	山内 90点 村上講師 10点		
教科書	系統別看護学講座 成人看護学⑦脳・神経 医学書院 系統別看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器 医学書院 系統別看護学講座 成人看護学⑨女性生殖器 医学書院 系統別看護学講座 成人看護学⑬眼 医学書院		

授業科目名	成人看護学方法論Ⅴ	担当講師名	①東浦龍至 ②神崎美和
対象学生	2年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	1. がん患者の全人的苦痛を理解し、治療に応じた看護の方法と症状が及ぼす苦痛に対する看護について学ぶ 2. 疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ		
回	授業内容	キーワード	担当
1	緩和ケアとは何か	緩和ケア ホスピス	東浦
2	緩和ケアの歴史と看護の役割	QOL	
3	がん患者の全人的苦痛と QOL	トータルペイン 全人的苦痛 キューブラーロス	
4	看取りのケア	死後の処置	
5	症状マネジメント	WHO 疼痛ラダー	神崎
6	疼痛を持つ患者へのケア	麻薬の取扱	
7	呼吸器症状をもつ患者のケア	浮腫 呼吸困難 安楽な体位	
8	倦怠感のある患者へのケア	リンパマッサージ 腹部マッサージ	
9	浮腫のある患者へのケア 消化器症状を持つ患者へのケア	温罨法 グリーンケア	
10	アレルギー疾患を持つ患者の看護	アレルギー反応 アナフィラキシーショック	東浦
11		I型 II型	
12	自己免疫疾患を持つ患者の看護	関節リウマチ	
13	感染症をもつ患者の看護	HIV	
14	白血病患者の看護	化学療法 集学的療法	
15		放射線治療 化学療法 免疫療法 手術療法など	
評価方法	筆記試験 配点 ①60点 ②40点		
教科書	系統看護学講座 成人看護学④血液・造血器 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学⑩アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学⑫皮膚 (医学書院) ナーシンググラフィカ 緩和ケア (メディカ出版)		

授業科目名	老年看護学概論	担当講師名	徳田 千代乃
開講時期	2年次 前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	<p>一人ひとりの高齢者が、どのような健康状態にあっても、その人らしく生きることを支える看護について学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を取り巻く社会の動向を理解する 2. 高齢社会における保健医療福祉制度や施策を理解する 3. 加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化について理解する 4. 多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解する 5. 看護者に求められる問題解決能力の基礎を学習することで、主体的学習行動を習得することができる 		
回数	内容	キーワード	備考
1	老年看護の特徴	理論と概念	講義、個人ワーク
2	【プロジェクト学習】 高齢者理解の基本 高齢者の特徴と理解 高齢者を支える制度 高齢者を支える社会資源 高齢者にとっての健康 高齢者の権利擁護	超高齢社会の統計的輪郭 日本史、生活史 保健医療福祉制度 介護保険 介護予防、ヘルスプロモーション エイジズム、アドボカシー、虐待 成年後見制度	個人ワーク【準備】
3			個人ワーク【情報リサーチ】
4			個人ワーク【情報リサーチ】
5			個人ワーク【制作】
6			グループワーク 【プレゼンテーション】
7			【再構築・成長確認】
8			老年期の発達課題
9			
10	地域で生活している高齢者	高齢者交流体験	大阪市給食サービス制度に参加
11			
12	身体に加齢変化とアセスメント	皮膚とその付属器、視聴覚	講義、DVD、個人ワーク
13		循環器系、呼吸器系	
14		消化・吸収、ホルモンの分泌	
15		運動器系、腎・泌尿器	
評価方法	筆記試験(40点)・課題レポート(20点)・プロジェクト学習(40点) 合計100点		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 (メヂカルフレンド社)		

授業科目名	老年看護学方法論 I	担当講師名	前岡富士子 山内 恵美
開講時期	2 年次 前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護について学ぶ 1. 高齢者に特有な健康障害を理解する 2. 健康障害に応じた援助方法を理解する 3. 高齢者を看護する留意点について理解を深める		
回数	講義内容	キーワード	担当 講師
1	老年症候群	急性疾患に付随する症候(発熱、脱水症)	前岡
2		慢性疾患に付随する症候(やせ、低栄養、しびれ、浮腫)	
3		ADL 低下に合併する症候(転倒、嚥下障害、フレイル)	
4	精神・神経疾患	脳血管障害	
5		パーキンソン病・パーキンソン症候群	
6	循環器系疾患	虚血性心疾患、心不全	
7	呼吸器系疾患	誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患	
8	腎・泌尿器系の疾患	腎不全、尿路感染症	
9	運動器の疾患	大腿骨頸部骨折、骨粗鬆症	
10	感覚器の疾患	加齢黄斑変性症、白内障	
11	認知機能の障害	うつ状態	山内
12		せん妄	
13		認知症	
14			
15			
評価方法	筆記試験 100 点(前岡 60 点 山内 40 点)		
教科書	系統看護講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 (メデカルフレンド社)		

授業科目名	老年看護学方法論Ⅱ	担当講師名	徳田 千代乃
開講時期	2年次 後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護について学ぶ 1. 高齢者の日常生活を支える看護について理解する 2. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護を理解する		
回数	講義内容	キーワード	備考
1	高齢者のフィジカルアセスメント	高齢者総合的機能評価、フィジカルアセスメント	講義、演習
2			
3	高齢者擬似体験	加齢現象、安全、安楽	演習、個人ワーク、グループワーク
4			
5	高齢者の生活機能を整える看護	転倒	転倒スコア、環境、移乗移動動作
6		廃用症候群	早期離床、ポジショニング
7		食事・食生活	嚥下、90度ルール
8		排泄	排尿・排便障害、自助具
9		清潔	入浴時の安全・安楽・自立、口腔ケア
10		生活リズム	睡眠と生活リズム
11		コミュニケーション	コミュニケーションの工夫
12	治療を必要とする 高齢者の看護	薬物療法	多剤併用、有害反応
13		手術療法	術後合併症、早期離床
14		リハビリテーション	回復期リハビリテーション病棟、看護の役割
15		終末期	エンドオブライフケア、意思決定、悲嘆
評価方法	筆記試験(60点)・課題レポート(20点)・演習内容(平常点含む20点)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 (メヂカルフレンド社)		

授業科目名	老年看護学方法論Ⅲ	担当講師名	徳田 千代乃
開講時期	2年次 後期	単位及び時間数	1単位 15時間
授業の目標 及び概要	紙上事例を基に、さまざまな健康状態、受療状況にある高齢者に対して必要な看護が展開できる基礎的能力を習得する		
回数	授業内容	キーワード	備考
1	疾患の学習	疾患と看護の理解	個人ワーク・グループワーク
2	看護とアセスメントの視点	健康レベルに応じた看護・ゴードンの11項目	
3	アセスメント	情報整理、分析、エビデンス、看護の方向性	
4	看護診断	診断名、関連因子、目標、計画内容との整合性	
5	看護計画		
6	看護計画の実施	対象者の身体状況のアセスメント・看護計画の妥当性	
7	プログレスノート	看護計画との整合性、エビデンス	
8	リフレクション	アセスメント～看護計画までの追加・修正	
評価方法	課題レポート 60点・(平常点・グループワーク協力度 40点)		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 (メヂカルフレンド社)		

授業科目名	小児看護学概論	担当講師名	上田 智恵美
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	<p>小児の特徴及び小児保健の動向を知り、子どもの権利を擁護する小児看護のあり方について考え、子どもを主体とした小児看護を考えることができる。</p> <p>① 小児看護の意義・役割・機能が述べられる。</p> <p>② 子ども観の変遷を知り、子どもの最善の利益を目指した看護を考えることができる。</p> <p>③ 小児の特徴と各期の成長・発達について述べられる。</p> <p>④ 小児保健の動向と保健対策の概要を知り、看護の役割と機能が述べられる。</p>		
授業内容		キーワード	備考
1	小児看護の対象 小児看護とは 子どもの特徴 小児期の区分 小児看護の特徴と場	子どもとは	
2	小児に関する諸統計 1) わが国の人口構造及び、小児人口の推移 2) 母子保健に関する人口動態統計	少子高齢化 人口減少傾向	国民衛生の動向
3	子どもの権利条約 小児医療・看護における子どもの権利と倫理的配慮	子どもの権利条約 インフォームド アセント	
4	母子保健と子育て支援 ・児童福祉法 ・母子保健法 ・児童虐待の防止		
5	学校保健施策・その他の法律 ・予防接種法 ・特別支援教育 ・臓器移植法		
6	小児看護における概念と理論 エリクソン ピアジェ 家族看護学 愛着理論	社会性 認知機能	
7	小児の成長・発達Ⅰ 成長・発達の原則と影響因子 成長を支える形態的成長	発達の原則	
8	小児の成長・発達Ⅱ 身体計測の実施	発達評価	演習
9	小児の発達段階に応じた日常生活援Ⅰ 生命を維持し恒常性を保つ機能の発達		
10	小児の発達段階に応じた日常生活援助Ⅱ 新生児・乳児の特徴及び日常生活支援	サーカディアンリズム 原始反射 離乳食 情緒の分化	
11	各期の発達の特徴を踏まえたに日常生活支援	言葉の発達 しつけ	GW
12	乳児期：離乳食と排泄	トレットトレーニング	
13	幼児期：認知・社会性と遊び コミュニケーション		
14	学童期：学習と遊び、事故防止と安全教育		
15	思春期：第二性徴、アイデンティティの確立		
15	学童期・思春期の特徴及び日常生活支援 まとめ	第二性徴・心理的離乳	
評価方法	筆記試験 90% 授業参加度 10%		
教科書	小児看護学概論 小児保健 (メヂカルフレンド社) 国民衛生の動向 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術 (メヂカルフレンド社)		

授業科目名	小児看護学方法論 I	担当講師名	藤岡 弘季
開講時期	2 年次前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	小児の発達と発育を軸とした小児疾患の病態を理解する		
授業内容		備 考	
1. 新生児 新生児の特徴と独自の病態 酸素療法について 2. 感染症 予防接種と各種感染症 3. 消化器疾患 4. 呼吸器疾患 5. 循環器疾患 6. アレルギー疾患 7. 血液疾患 8. 神経・筋疾患 9. 内分泌・代謝疾患 10. 腎・尿路疾患 11. 免疫疾患・膠原病 12. 骨・関節・感覚器疾患 13. 皮膚・精神疾患 14. 小児救命救急処置 小児救急におけるトリアージと方法 小児の熱傷の特徴・重症度および処置 一次救命処置 小児の事故・外傷・虐待の特徴		講義	
評価方法	筆記試験		
教科書	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 (メヂカルフレンド社)		

授業科目名	小児看護学方法論Ⅱ	担当講師名	徳田 薫
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	①病気や入院による子どもとその家族に及ぼす影響と看護について理解することができる ②小児の疾患について、小児の特徴を踏まえて理解し、それぞれの状態に応じた看護が展開できる ③子どもに起こりやすい症状について、それぞれの状態に応じた看護援助の方法を考えることができる ④医療安全の観点から小児の発達課題に伴うリスクについて考えることができる		
授業内容		キーワード	備考
1	健康障害をもつ子どもとその家族への看護	ICFモデル	GW
2	快適な病院環境に向けての看護 ① 特徴、機能、看護、環境、安全、感染防止	サークルベッド 啓発ポスター作成	GW
3	快適な病院環境に向けての看護 ②		発表
4	子どもに特有な症状のアセスメントと看護 ① (呼吸器疾患を持つ児と家族の看護) 事例を使用し、関連図作成 必要な看護を考える	RSウイルス肺炎	事例 GW
5	子どもに特有な症状のアセスメントと看護 ② (呼吸器疾患を持つ児と家族の看護)		GW
6	子どもに特有な症状のアセスメントと看護 ③ (呼吸器疾患を持つ児と家族の看護)		発表
7	子どもに特有な症状のアセスメントと看護 ① (消化器疾患を持つ児と家族の看護) 事例を使用し、必要なアセスメントと看護を考える	ロタウイルス感染症	GW
8	子どもに特有な症状のアセスメントと看護 ② (消化器疾患を持つ児と家族の看護)		GW
9	感染症と隔離について	隔離 スタンダード プリコーション	講義
10	活動制限・運動制限のある児と家族への看護 活動制限の目的とケアの基本	上腕骨顆上骨折 安静	ワーク ケアプラン作成
11 12	小児に必要な看護技術	プレパレーション	GW 指導案作成 作成→発表
13	救急看護 熱傷 外傷 異物誤飲 虐待 など	救急蘇生	講義
14 15	小児に必要な看護技術Ⅲ グループ演習 バイタルサイン測定 沐浴等	手順書	実習室演習
評価方法	筆記試験 80% 授業参加度 5% 発表 15%		
教科書	新体系看護学全書 健康障害をもつ小児の看護 (メヂカルフレンド社) 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術 (メヂカルフレンド社)		

授業科目名	小児看護学方法論Ⅲ	担当講師名	徳田 薫
開講時期	2年次後期	単位及び時間数	1単位 15時間
授業の目標及び概要	<p>1. 小児期にある健康障害を持つ対象を理解し、それぞれの状態に応じた看護が展開できる能力を身につける</p> <p>①疾患・治療が及ぼす影響を最小限にし、成長・発達を促す援助を考えることができる</p> <p>②患児及び家族への生活指導に対して、計画的・実践的な援助を考えることができる</p>		
授業内容		キーワード	備考
1	小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 看護実践するために必要なデータベースを見いだす (データの整理)	情報の整理	個人ワーク 各講義終了後、 指定日時までに 課題提出。
2 3	②③小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 対象を表しているデータを解釈・判断・推論し、対象を知り理解するために必要なことを明確にする	アセスメント	
4	④小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 対象に必要な看護が見いだす	看護診断立案 目標設定	
5	⑤小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 対象に必要な看護が見いだす	看護計画内容立案	
6	⑥小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 現在の健康状態をしり、日々のアセスメントができ、看護の方向性を見出すことができる	フローシート	
7 8	⑦⑧小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 退院に必要な看護指導を実施する(紙面)	評価・退院指導案作成	
評価方法	レポート点 100% (講義参加度、積極性も含む)		
教科書	健康障害をもつ小児の看護 小児看護学概論 小児保健 (メヂカルフレンド社) 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術 (メヂカルフレンド社)		

授業科目名	母性看護学概論	担当講師名	井手窪 澄子
対象学生	2年生前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	<p>1. リプロダクティブ・ヘルスの基礎（概念、整理、倫理、法・制度）や動向および看護の基本的な知識を学ぶ。</p> <p>2. 女性のライフサイクル各期における健康課題を理解し、ウィメンズヘルスに関する看護の基本的な知識を学ぶ</p>		
回	授業内容	キーワード	
1	母性とは 母性看護とは セクシャリティ（人間の性）	母性看護の理念、母性看護の役割 ジェンダー、セクシャリティ、性行動、性の	
2	母性看護の歴史的変遷と現状 母子保健の動向	母性、父性、親性 母子相互作用 母子保健統計 子育て支援施策	
3	母性看護における法律、施策 ①	母子保健法、母体保護法、育児休業法、労働 基準法	
4	母性看護における法律、施策 ②		
5	リプロダクティブヘルスライツ	ウィメンズヘルスライツ、女性の健康	
6	リプロダクティブヘルスケア①	DV、性感染症、喫煙、飲酒、在日外国人母 子、災害時の母子の看護、不妊治療	
7	リプロダクティブヘルスケア②		
8	女性のライフサイクルにおける形態・ 機能の変化	月経機能の調節機序、卵巣の周期的変化、性 周期における変化、卵胞の発育	
9	女性のライフサイクルにおける健康① （思春期～青年期）	ヘルスプロモーション、セルフケア、 月経異常、性感染症	
10	女性のライフサイクルにおける健康② （成熟期）	家族計画、妊娠・分娩・出産	
11	女性のライフサイクルにおける健康③ （更年期・老年期）	更年期症状、閉経	
12	母性看護に関する理論	ウェルネスの視点、早期接触、母子相互作用	
13	母性看護における倫理的問題 ①	出生前診断	
14	母性看護における倫理的問題 ②	死産、人工妊娠中絶	
15	まとめ		
評価方法	配点 80%：筆記試験 20%：授業の参加度、レポート課題		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 国民衛生の動向		

授業科目名	母性看護学方法論 I	担当講師名	福田 洋
対象学生	2 年生前期	単位及び時間数	1 単位 30 時間
授業の目標 及び概要	1. マタニティサイクル（妊娠、分娩、産褥、新生児期）の正常及び異常経過について理解する 2. ライフサイクル各期（思春期、成熟期、更年期・老年期）の健康と健康障害について理解する		
回	授業内容	キーワード	備考
1	妊娠期の身体のしくみ	妊娠の定義、妊娠のメカニズム、精子、受精、着床 胎児の成長と発育	講義
2	ハイリスク妊娠	ハイリスク妊娠、超音波断層法、胎児 well-being	講義
3	妊婦と胎児にみられる異常①	妊娠悪阻、流産、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、過期妊娠、多胎妊娠、妊娠糖尿病	講義
4	妊婦と胎児にみられる異常②	胎児の形態異常、胎児の発育異常、胎児付属物の異常	講義
5	分娩期の身体のしくみ	分娩開始、分娩の3要素、分娩のメカニズム	講義
6	分娩の異常（難産）	無痛分娩、微弱陣痛、児頭骨盤不均衡、胎児機能不全	講義
7	産褥期の身体のしくみ 産褥の経過	子宮復古、悪露、後陣痛、乳汁分泌の生理	講義
8	褥婦にみられる異常	子宮復古不全、産褥熱、血栓性静脈炎、乳腺炎	講義
9	新生児の身体のしくみ 子宮外環境への適応	子宮外適応、呼吸の確立、胎児循環、新生児の体温調節、嘔吐と溢乳、新生児の覚醒と睡眠	講義
10	新生児にみられる異常①	低出生体重児、一過性多呼吸、動脈管開存症、双胎間輸血、	講義
11	新生児にみられる異常②	低血糖、鎖肛、高ビリルビン血症、先天性風疹症候群、成人T細胞白血病、先天性代謝異常マスキリーニング、分娩外傷	講義
12	褥婦の心理的社会的な変化、母親に 起こりやすい心の病理	母性性的変化、マタニティサイクルと気分障害、不安障害	講義
13	出生前診断	出生前診断の意義と概要	講義
14	分娩の経過	分娩正常経過	DVD
15	ライフサイクル各期（思春期、成熟期、 更年期・老年期）の健康と健康障害	月経異常・性感感染症・更年期症状・閉経	講義
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 (医学書院)		

授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ	担当講師名	井手窪 澄子
対象学生	2年生後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標および概要	1. マタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥および新生児期）の特性について理解する 2. マタニティサイクルにある母子が健康的な生活を送るために必要な看護について理解する		
回	授業内容	キーワード	
1	妊婦と胎児のアセスメント （ウエルネスの視点）	妊婦健康診査、分娩予定日、超音波検査、母子健康手帳、妊婦の心理、レオポルド触診法、子宮底、腹囲測定、NST、	
2	妊婦の保健指導の実際	妊娠各期の保健指導、マイナートラブル、妊娠中の食生活、バースプラン、小集団指導、個別指導	
3	妊娠期の異常と看護	妊娠悪阻、流早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠貧血、血液型不適合妊娠、双胎間輸血症候群	
4	産婦と胎児の健康状態のアセスメント（ウエルネスの視点）	分娩3要素、分娩機転、ビショップスコア、フリードマン曲線、パルトグラム、CTG	
5	母子の健康を保つための看護 分娩第1期から4期の看護	分娩所要時間、陣痛周期、産痛緩和、呼吸法、LDR	
6	分娩期の異常と看護 分娩異常と処置、帝王切開術	前期破水、胎児機能不全、弛緩出血、帝王切開、主な産科処置（吸引分娩、会陰切開）	
7	褥婦の健康状態のアセスメント （ウエルネスの視点）	子宮復古、悪露、排尿・排便 会陰部痛、乳汁分泌、ポジショニングとラッチオン 頻回授乳	
8	母親役割獲得への援助	褥婦の心理、ルービン、バースレビュー、マタニティーブルー、産後うつ病	
9	新生児の健康状態とアセスメント （ウエルネスの視点）	アプガースコア、呼吸の確立、生理的体重減少、生理的黄疸	
10	胎外生活適応へ向けての看護	新生児の看護の原則、保育環境、ドライケア、自律授乳	
11	母性看護に必要な基礎的援助技術	新生児の観察、沐浴、ドライケア	
12	産褥期の異常と看護	子宮復古不全、産褥熱、貧血、乳腺炎、産後うつ	
13	新生児期の異常と看護	高ビリルビン血症、低出生体重児、死産、先天性奇形	
14	褥婦の保健指導（セルフケアへ向けた援助）	母乳育児支援、家族計画、産褥体操、産後の栄養、沐浴指導など	
15	まとめ		
評価方法	筆記試験 80%、レポート課題・授業の参加度・出席状況 20%		
教科書	系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 根拠と事故防止から見た母性看護技術 医学書院		

授業科目名	母性看護学方法論Ⅲ	担当講師名	井手窪 澄子
対象学生	2年次後期	単位及び時間数	1単位 15時間
授業の目標及び概要	妊・産・褥婦および新生児の正常経過を理解したうえで、対象に必要な看護を展開するために必要となる基本的なアセスメント能力を養う		
回	授業内容	キーワード	
1	正常経過をたどっている妊婦のアセスメント	子宮底長、血圧、体重、Hb、NST 胎児推定体重、マイナートラブル	
2			
3	正常経過をたどっている産婦のアセスメント	破水の種類、子宮口開大、産痛緩和、分娩所要時間、分娩時出血量	
4	正常経過をたどっている新生児のアセスメント	生理的体重減少、生理的黄疸、胎便、移行便、経日変化	
5			
6	正常経過をたどっている褥婦のアセスメント	退行性変化、進行性変化、母親役割獲得過程、母乳育児支援、	
7			
8	母乳育児支援の看護計画の作成	ポジショニング、ラッチオン	
評価方法	レポート課題、ワークへの取り組み姿勢		
教科書	系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 根拠と事故防止から見た母性看護技術 医学書院 マタニティ診断ガイドブック 第5版 医学書院		

授業科目名	精神看護学概論	担当講師名	増田 明
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<p>こころの健康とは何か、こころが病むとはどういうことなのか、これらを学習することで広く人間を理解することを探求する。さらに、精神看護領域における基本的援助技術及び看護場面における介入の裏付けとなる対人関係論について学習する。また、精神保健福祉制度の歴史的変遷及び関連法規についての理解を深め、最近の動向を踏まえて看護のあり方を探求し、実践能力の向上を図る。</p>		
授業内容		備考	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学で学ぶこと 2. 精神看護学で学ぶこと 3. 精神保健の考え方 4. 精神の健康と障害 5. ストレスマネジメント 6. 人間の心のはたらき 7. パーソナリティーの発達 8. 甘えの理論 9. ストレスマネジメント 10. 関係の中の人間 11. 精神障害の治療と歴史 12. 日本の精神医療 13. 精神障害と法制度 14. プロセスレコード 15. まとめ 		講義	
評価方法	平常点 50 点 筆記試験 50 点		
教科書	系統看護学講座 精神看護学 精神看護の基礎 (医学書院) (参考書) 土居健朗『甘えの構造』弘文堂 2005		

授業科目名	精神看護学方法論 I	担当講師名	岩瀬綽子
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	精神科の医療機関のみならず、幅広い分野で知識を生かせるように習得していく。まず、基盤となる人権について、その歴史を学び理解を深める。そして、すべての疾患の看護に共通する精神の働きを知ると共に、各精神疾患について、その特徴と知識を学ぶ。		
授 業 内 容			備 考
1. 精神障害と治療の歴史（世界） 2. 日本における精神医学・精神医療の流れ 3. パーソナリティと気質、知能、意識と認知機能、感情について 4. パーソナリティの発達理論 5. ストレスと心の危機 6. 精神を病むとは？ 精神症状論と状態像、精神障害の診断と分類 7. 各種疾患の症状、成因論、疫学、治療等について： 神経発達症群 統合失調症または他の一次性障害群 気分症＜障害＞群 不安または恐怖症関連症群 強迫症または関連症群 ストレス関連症群 解離症群 食行動症または摂食症群 身体的苦痛症群または身体的体験症群 物資使用症＜障害＞群または嗜癖行動症＜障害＞群 衝動制御症群・秩序破壊的または非社会的行動症群 パーソナリティ症＜障害＞および行動の障害 パラフィリア症群。作為症群 神経認知障害群 その他、精神科関連疾患として、睡眠・覚醒症群、心身症、てんかんなど 8. 精神疾患の治療：身体療法、精神療法、その他			
評価方法	筆記試験		
教科書	系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎（医学書院）		

授業科目名	精神看護学方法論Ⅱ	担当講師名	増田 明
開講時期	2年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	精神看護の対象の特性を理解し、こころの健康を維持するため援助と、精神障害者及び家族への援助に必要な基礎的知識を学び、社会資源を活用した地域生活を支えるシステムを探求する。		
授業内容		備考	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の対象Ⅰ 2. 精神看護の対象Ⅱ 3. ケアの人間関係Ⅰ 4. ケアの人間関係Ⅱ 5. 回復を助けるⅠ 6. 回復を助けるⅡ 7. 安全をまもるⅠ 8. 安全をまもるⅡ 9. 身体をケアするⅠ 10. 身体をケアするⅡ 11. サバイバーとしての患者とそのケア 12. 地域における精神保健と精神看護 13. リエゾン精神看護 14. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 15. まとめ 		講義	
評価方法	平常点 50点 筆記試験 50点		
教科書	系統看護学講座 精神看護学 精神看護の展開 医学書院 (参考書)『精神神経疾患ビジュアルブック』学研メディカル秀潤社 2015		

授業科目名	精神看護学方法論Ⅲ	担当講師名	増田 明
開講時期	2年後期	単位及び時間数	1単位 15時間
授業の目標 及び概要	個々の事例を通して、精神看護に必要な自己洞察について学び、こころの問題に直面している対象に必要な看護が展開できる能力を身につける。		
授業内容			備考
1. 精神障害者との関わり方 自己洞察の方法と他者理解の必要性 プロセスレコードの作成 2. 統合失調症や気分障害をもつ人の紙上事例を用い、オレム・アンダー ウッド理論モデルによる看護計画を立案する。 3. 個々の事例を共有するために、紙上展開された事例発表を行う。			演習
評価方法	レポート、ロールプレイ：100点		
教科書	系統看護学講座 精神看護学 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学 精神看護の展開 (医学書院)		

授業科目名	成人看護学実習	担当講師	高田 紳吾 ほか
対象学生	2年次後期～3年次	単位及び時間数	6単位 270時間

成人看護学実習Ⅰ

【実習目的】

慢性的な健康障害及び身体機能の変調のある対象を理解し、対象の自己管理に向けた看護・セルフケアの自立に向けた看護を実践する基礎的能力を養う

【実習目標】

1. 健康障害及び身体機能の変調により慢性的な経過をたどる対象を身体的・心理的・社会的側面から理解することができる
2. 慢性的な経過をたどる対象に向けた看護が実践できる
3. 継続看護の必要性を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を考慮することができる
4. 実践内容を踏まえ慢性的な経過をたどる対象に向けた看護を考慮することができる

成人看護学実習Ⅱ

【実習目的】

手術を受ける及び生命の危機的状況にある対象を理解し、周手術期における看護・生命の危機的状況における看護を実践できる基礎能力を養う

【実習目標】

1. 急激な健康状態の変化がある対象を身体的・心理的・社会的側面から理解することができる
2. 急激な健康状態の変化がある対象に向けた看護が実践できる
3. 継続看護の必要性を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を考慮することができる
4. 実践内容を踏まえ急激な健康状態の変化がある対象に向けた看護を考慮することができる

成人看護学実習Ⅲ

【実習目的】

終末期にある（緩和ケアを必要とする）対象を理解し、終末期における看護（苦痛緩和に向けた看護）を実践できる基礎的能力を養う

【実習目標】

1. 終末期にある（緩和ケアを必要とする）対象を身体的・心理的・社会的・霊的側面から全人的に理解することができる
2. 終末期における（苦痛緩和に向けた）看護が実践できる
3. 継続看護の必要性を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を考慮することができる
4. 実践内容を踏まえ終末期における（苦痛緩和に向けた）看護を考慮することができる

授業科目名	老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ	担当講師	徳田 千代乃
対象学生	2年次後期～3年次	単位及び時間数	各2単位 90時間

老年看護学実習Ⅰ

【実習目的】

老年期にある対象を全人的に理解し、対象に応じた看護を実践できる基礎能力を習得する

【実習目標】※病院実習

1. 加齢による機能障害を持った対象者を全人的に理解できる
2. 対象者の入院生活における医療の場の実際と看護を説明できる
3. 対象者看護における多職種連携と継続ケアの必要性がわかる

【実習目標】※白寿苑実習

1. 加齢による機能障害を持った対象者を全人的に理解できる
2. 対象者の生活の場、療養の場の実際と看護を説明できる
3. 対象者看護における多職種連携と継続ケアの必要性がわかる

老年看護学実習Ⅱ

【実習目的】

老年期にある対象を全人的に理解し、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を習得する

【実習目標】

1. 健康障害および加齢による機能障害をもった対象を全人的に理解できる
2. 老年期にある対象の健康障害の複雑さ、多様性を理解し、健康障害の状態に応じた看護が実践できる
3. 老年期にある健康問題をもつ対象と家族の関係を理解し、対象と家族への支援方法が理解できる
4. 保健医療福祉チームにおける看護職の役割と責任を考え、継続・連携できる看護のあり方がわかる

授業科目名	在宅看護概論	担当講師名	太田 和江
開講時期	2年次前期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<p>在宅看護のイメージ化をはかり、地域における看護師像を描くことができる。</p> <p>1. 在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念が説明できる。 2. 在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴が説明できる。 3. 在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源についてわかる。 4. 地域での看護師はどうあるべきかを自己の意見として述べるができる。</p>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	I 在宅看護の目的と特徴	在宅看護 訪問看護 地域看護 巡回看護 派出看護	講義
2	II 在宅看護の対象者 1) 対象者の特徴	認知症高齢者の日常生活自立度 障害高齢者の日常生活自立度 介護者	講義
3	2) 家族のとらえ方	家族の定義 家族システム理論 家族発達理論 ジェットコースター理論 二重ABC-X理論 カルガリー家族アセスメントモデル 家続エンパワメントモデル	講義
4	III 在宅療養の支援	退院調整 退院支援 訪問看護 外来看護 施設看護 通所サービス看護	講義
5	IV 在宅看護にかかわる法令と制度 1) 介護保険法	介護サービス 介護予防サービス 日常生活総合支援事業 介護認定 地域包括支援センター	TBL
6	2) 医療保険と介護保険	医療保険 介護保険 後期高齢者医療	講義
7	3) 公費負担医療制度ほか	難病法 障害者総合支援法 小児慢性特定疾病 自立支援医療 精神通院医療	講義
8	4) 訪問看護の制度	訪問看護事業 訪問看護ステーション 利用料	講義
9	5) 地域における多職種連携	社会資源 多職種連携 協働 地域連携	講義
10	V 障害者と医療的ケア児	障害者総合支援法 障害者差別解消法	演習
11	VI 在宅看護におけるリスクマネジメント	転倒予防 救急を要する症状アセスメント 災害への備え	講義
12	VII 療養者と権利保障 1) 療養者の権利保障	個人の尊厳 自己決定権 個人情報の保護 成年後見 虐待防止	演習
13	2) 在宅看護における倫理	自己決定 療養者の権利 サービス 契約	演習
14	VIII 在宅看護の展望	地域包括ケアシステム 地域での看護師の機能と役割	講義
15		の拡大	演習
評価方法	筆記試験 90点 授業参加度 10点		
教科書	系統看護学講座 在宅看護論 (医学書院) 看護実践のための根拠が分かる在宅看護技術(メヂカルフレンド社)		

授業科目名	在宅看護方法論 I	担当講師名	太田 和江
開講時期	2年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<p>在宅において合理的かつ経済的な方法を用い、医療処置等家族への療養指導を踏まえた看護技術を提案するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>1.在宅医療で用いられている機器や器具について理解することができる 2.看護技術を在宅で提供するときの考え方の基礎を身につける 3.事例に基づいた療養生活を支援する自助具について企画し、発表することができる</p>		
回	授業内容	キーワード	備考
1	I 在宅技術概論	住環境 福祉用具	講義
2	II 在宅生活をささげる基本的技術	フィジカルアセスメント 環境整備 感染予防	講義
3	III 在宅生活援助技術	住宅改修 訪問入浴	講義
4		入浴介助 在宅での移動援助	演習
5	IV 在宅医療管理支援 1)薬物療法の援助	薬物管理 訪問薬剤師との連携 がん外来化学療法	講義
6	2)経管栄養法 輸液管理	半固形流動食 訪問管理栄養士 PEG HPN(在宅中心静脈栄養) ポート ヒューバー針	講義
7	3)腹膜還流透析 排泄管理	CAPD APD バルンカテーテル ストマ	講義
8	4)在宅酸素療法	HOT(在宅酸素療法) 酸素濃縮器 CPAP	帝人 在宅医療
9			
10	5)在宅人工呼吸療法	HMV(在宅人工呼吸療法) 気管カ ニューレ カフアシスト	講義
11	6)在宅における疼痛コントロール 臨死期の援助	在宅での麻薬管理 訪問薬剤師 死亡診断 遺体の取り扱い	講義
12	7)在宅褥瘡管理	在宅 K 式アセスメント ハンモック現 象 ラップ療法	講義
13	IV 訪問看護のマナー	訪問マナー モラル	グループ ワーク
14	模擬訪問実習		演習
15	V 在宅療養支援の工夫	自助具	発表
評価方法	筆記試験 70点 授業参加度 10点 自助具 20点		
教科書	<p>系統看護学講座 在宅看護論 (医学書院)</p> <p>看護実践のための根拠が分かる在宅看護技術(メヂカルフレンド社)</p>		

授業科目名	在宅看護方法論Ⅱ	担当講師名	太田 和江
開講時期	2年次後期	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	在宅療養生活の QOL を高め、より長く維持、継続させていくための方策を学ぶ 1. 訪問看護導入から終結までの流れが説明できる 2. 在宅療養者の特徴に基づく在宅における看護が理解できる 3. 様々な社会資源を用いながら療養支援を考えることができる 4. 自己決定を支える支援を考えることができる		
回	授業内容	キーワード	備考
1	I 在宅看護介護時期別の特徴	退院調整 住環境整備 介護力	講義
2	II 療養者の特徴に基づく看護の実際 ①脳卒中を起こした在宅療養時	訪問リハビリテーション	講義
3	②認知症のある療養者	バリデーション ユマニチュード タクティール 徘徊高齢者 SOS ネットワーク 高齢者虐待	講義
4	③独居療養者	定期巡回/随時対応サービス セルフネグレクト	演習
5	④小児療養児	医療的ケア児 養育医療 障害児通所支援 小児慢性特定疾病	講義
6	⑤統合失調症のある療養者	精神通院医療 地域移行支援・定着支援 アウトリーチ	講義
7	⑥中途障害をもつ療養者	障害者総合支援法 障害年金インフォर्मルサービス	講義
8	⑦ALS1 病態、予後、看護	TLS 自己決定 自己実現 KAP の対応	講義
9	ALS2	重度訪問介護 意思決定支援	講義
10	⑧難病	障害者区分 後方支援	グループワーク
11	サービス担当者会議		演習
12	III 在宅ターミナルケア1	エンドオブライフケア アドバンスケアプランニング	講義
13	在宅ターミナルケア2	老衰 自然死	演習
14	IV 自己決定を支える支援の在り方		演習
15	① 独居療養者の退院 ② サービスを拒否する療養者		ディベート
評価方法	筆記試験 80点 授業参加度 20点		
教科書	系統看護学講座 在宅看護論 (医学書院) 看護実践のための根拠が分かる在宅看護技術(メヂカルフレンド社)		

南大阪看護専門学校

2020 年度 シラバス

3 年次

授業科目名	小児看護学実習	担当講師	徳田 薫
対象学生	3年次	単位及び時間数	2単位 90時間

【実習目的】

成長・発達段階にある子どもを理解し、あらゆる健康レベルにある子どもとその家族に対して適切な看護を実践する基礎的能力を養う

【実習目標】

1. 子どもの各成長・発達段階の特徴を理解し、対象に応じた日常生活援助ができる
2. 健康障害や入院が子どもとその家族に及ぼす影響を踏まえて、必要な援助を実践することができる
3. 子どもの安全を守るための看護について学ぶことができる

[保育園実習]

1. 乳児期・幼児期の子どもと関わり、健康な子どもの成長・発達を理解する
2. 子どもの成長・発達段階に応じた日常生活援助ができる

[病院実習]

1. 子どもの各成長・発達段階の特徴を理解し、対象に応じた日常生活援助ができる
2. 健康障害や入院が子どもとその家族に及ぼす影響を踏まえて、必要な援助を実践することができる
3. 子どもの安全を守るための看護について学ぶことができる

授業科目名	母性看護学実習	担当講師	井手窪 澄子
対象学生	3年次	単位及び時間数	2単位 90時間

【実習目的】

1. 周産期（妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期）にある対象の特性を理解し、母性看護に必要な基礎的実践能力を養う
2. 母性看護の意義、役割を学び、実践を通して自分自身の母性意識を養う

【実習目標】

1. 妊娠期の対象の特性と経過に合わせた援助および社会資源の活用を知り、看護師の役割を考察することができる
2. 分娩期の対象の特性と分娩経過に合わせた必要な看護を考えることができる
3. 産褥期および新生児期の特性と健康増進に向けて必要な援助を実践することができる
4. 生命誕生の意義について理解し、自らの親性意識を高めることができる

授業科目名	精神看護学実習	担当講師	東浦 龍至 ほか
対象学生	3年次	単位及び時間数	2単位 90時間

【実習目的】

精神に障害のある対象および家族を理解し、個別的な看護が実践できる基礎的能力と対象を尊重する態度を養う

【実習目標】

1. 精神に障害をもつ対象を理解することができる
2. 対象のセルフケア能力に応じた日常生活行動への援助を計画・実施・評価できる
3. 治療的な関わりを意識し、患者—看護師関係を形成できる
4. 対象への関わりを通して、自己の感情や行動の傾向に気づき、自己洞察できる

授業科目名	看護管理	担当講師名	田原 しのぶ 渡邊 美津江
開講時期	3年次	単位及び時間数	1単位 15時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> ・看護管理について基礎的な理解を深め、医療チーム及び多職種との連携ができる ・看護実践におけるマネジメントについて考えることができる ・良質な医療及び看護について追求する姿勢を育てる 		
回	授業内容	キーワード	備考
1	第1章 看護とマネジメント A 看護管理学とは ○看護サービスのマネジメント	看護マネジメントの変遷	講義
2	第2章 看護ケアのマネジメント A 看護ケアのマネジメントのプロセス B 患者の権利の尊重	ナイチンゲール インフォームドコンセント、 意思決定の支援	
3	C 安全管理 ○医療事故対策 D チーム医療 ○多職種との連携・協働	安全管理のシステム、安全文化 院内感染対策、災害の予防と対策 コミュニケーション	講義・ 課題 レポート
4	E 看護業務の実際(日常業務のマネジメント)	看護業務、看護基準と看護手順、 クリニカルパス、情報の活用	※渡邊 看護部長
5	第3章 看護職のキャリアマネジメント A キャリア形成	キャリアラダー、新人看護職員研修 ストレスマネジメント	講義 課題 レポート
6	第4章 看護サービスのマネジメント ○看護ケアの提供システム ○人材マネジメント ○人材フローのマネジメント 労働環境 ○施設・設備環境、物品、情報	組織化、看護単位、看護方式 キャリアディペロップメント、プリ セプター、インフロー、内部フロー 労働安全衛生、賃金、安全性の確 保、快適性の確保、機能性の確保	※渡邊 看護部長
5	○組織におけるリスクマネジメント ○サービスの評価	事業継続計画（BCP）守秘義務、 プライバシー、質の評価クリニカル インディケーター、病院機能評価	
7	第5章 マネジメントに必要な知識と技術 B 組織とマネジメント C リーダーシップとマネジメント D 組織の調整	組織構造、PDCA サイクル 特性理論、行動理論、条件適合理論 集団規範、動機づけ、エンパワメ ント	講義 GW
8	第6章 看護を取り巻く諸制度 B 看護職の定義 ○看護師の法的責任 ○看護職の職業倫理 ○看護職の教育制度 C 医療制度	保助看法 看護師の人材確保の促進 看護基礎教育課程 認定・専門看護 師・特定行為 医療法、	講義
評価方法	筆記試験 レポート		
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 看護管理 (医学書院)		

授業科目名	看護研究	担当講師名	徳田 薫
開講時期	3年次	単位及び時間数	1 単位 15 時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの看護実践を看護理論や研究成果と照合し、自己の看護観を明確にする。 ・事例研究の過程やその結果を通して、看護職者としてエビデンスに基づく実践を取り入れ、研究力を身につけることができる。 		
回	授業内容	キーワード	備考
1	看護研究の基礎・実践 ケースレポートの進め方	リサーチクエスチョン・ 文献レビュー	2年次前期看護学概論Ⅱと つなげる
2		大理論・中範囲理論・実践理論 倫理的配慮・研究計画書 ケースレポート	
3	事例研究発表	1) 実践に基づいたエビデンスに基づく看護実践の検証 2) 看護理論や研究論文などの文献検索 3) 事例研究レポートの作成 ※別紙「看護研究要綱」を参照	
4			
5			
6			
7			
8			
評価方法	事例研究レポート (取り組み姿勢・事例研究レポート内容・発表姿勢など) ※別紙の評価表を参照		
教科書	看護理論 看護理論 20 の理解と実践への応用 (南江堂) 系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)		

授業科目名	災害看護	担当講師名	岸本 ゆき江
開講時期	3年次	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標及び概要	<ul style="list-style-type: none"> ・災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を修得できる ・災害における看護の役割について理解し、命の大切さと人々の生活を考えることができる ・防災・減災マネジメントの一環として、学校防災訓練を企画運営することができる 		
回	授業内容	キーワード	備考
1	災害医療の基礎知識 ①災害の定義 ②災害の種類と健康障害 ③災害医療の特徴	CNS、クラッシュシンドローム エコノミークラス症候群、災害関連死、 感染制御、CSCATT、トリアージ、災害拠点病院、 広域災害救急医療、情報システム、 DMAT、災害医療のコーディネーション	講義、 課題レ ポ ト GW、DVD *「東 日本大 震災」 より学 ぶ
2	④マスギャザリングとNBC 災害への対応 ⑤災害と情報：災害情報の種類と内容 ⑥災害対応にかかわる職種間・組織間連携 ⑦災害看護と法律	ゾーニング METHANE、災害医療コーディネーター、 災害対策基本法、災害救助法	
3	⑧近年の災害における課題と対策	阪神淡路大震災、東日本大震災	
4			
5	災害看護の基礎知識 ①災害看護の定義と役割 ②災害看護の対象 ③災害看護の特徴と看護活動	看護師の行動特性 (コンピテンシー) 災害時要援護者 救急看護との違いと共通点	
6	災害サイクルに応じた活動現場別の 災害看護 ①急性期・亜急性期 ②慢性期・復興期 ③静穏期	救護所、避難所医療、救護チーム、ロジスティクス、 PPE、サーベイランス、 仮設住宅、孤独死、こころのケア、 コミュニティの構築 災害対策マニュアル、防災計画、災害教育、 減災、自助・共助、公助、PDCA サイクル	
7	被災者特性に応じた災害看護の展開	子ども、妊産婦、高齢者	
9 10	災害とこころのケア	トラウマ、PTSD、グリーフケア、サバイバーズギルト、 ブリーフィング、デフュージング	講義 演習、 DVD
8	地震災害看護の展開 発災直後から出動までの看護	METHANE、一次トリアージ、二次トリアージ BLS のアルゴリズム、包帯法、搬送法、止血 ACLS	講義 GW
11 12 13 14	*人と未来防災センター見学 ●学校防災訓練の企画、運営を行い、評価 する		施設見 学 災害訓 練の実 施
15	国際看護学とは グローバルヘルス 国際協力のしくみ	JICA、国連国際防災戦略、ODA、PKO、 国際緊急援助隊、	講義
評価方法	筆記試験 レポート		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 「災害看護学・国際看護学」看護の統合と実践③ 医学書院 ・東日本大震災：石巻災害医療の全記録 「最大被災地」を医療崩壊から救った医師の7ヶ月間 著者；石井 正，講談社 系統看護学講座 統 		

授業科目名	看護の統合と実践	担当講師名	東浦 龍至
開講時期	3年次	単位及び時間数	1単位 30時間
授業の目標 及び概要	<ul style="list-style-type: none"> 臨床に近い状況下で複数の患者への看護を考え、総合的な判断や対応する能力を養う 診療の補助技術における事故防止のための知識・技術を習得し、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる 		
回	授業内容	キーワード	備考
1	複数の患者の援助計画	紙上事例に基づき1日の援助計画を立案する	講義及び演習
2	複数の患者の援助計画	援助計画の解説、多重課題を遂行するには	
3	複数の患者への対応	複数の患者への対応の体験【演習】	
4			
5	複数の患者への対応の振り返り	リフレクション	
6	倫理的配慮について	紙上事例を用いて検討する	
7	医療安全	KYTの考え方	
8	医療安全	【演習】KYT	
9	医療安全	薬剤等に関する知識	
10	医療安全	薬剤等に関する知識	
11	まとめ発表の準備	これまで学習したことを踏まえて、看護のポイントを整理し学びを深める。シナリオの作成	
12			
13	まとめ発表	作成したシナリオに基づき発表を行う	
14			
15	発表後の振り返り	発表を終えて評価を行う	
評価方法	演習課題・レポート		
教科書	新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 (メヂカルフレンド社) 医療安全ワークブック (医学書院)		

授業科目名	在宅看護論実習	担当講師	高岡 操 辻野 美嘉
対象学生	3年次	単位及び時間数	2単位 90時間

【実習目的】

1. 地域で生活する対象を理解し、在宅療養を支援するために必要な基礎的能力を養う
2. 地域における保健医療福祉活動の実際を知り、関係機関、関連職種との連携と協働を通して看護職の役割を学ぶ

【実習目標】

1. 療養者の療養生活の実際と療養者の全体像を把握し、療養生活を支援するために必要な看護を
考えることができる
2. 訪問看護の特性と訪問看護師の役割を説明できる
3. 在宅ケアにおける看護職の位置づけとその役割を考察することができる

授業科目名	統合実習	担当講師	東浦 龍至 ほか
対象学生	3年次後期	単位及び 時間数	2単位 90時間
<p>【実習目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識・技術・態度を統合し、複数の対象に対して倫理的判断に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う 2. 看護における組織と管理の実際を学ぶ <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の実際が理解できる 2. 医療チームの一員としての看護師の役割が理解できる 3. 複数の患者を受け持ち、優先度・時間管理・安全を考慮し看護師の指導のもと援助が実施できる 4. 患者の24時間の療養生活を支える看護の実際について理解できる 5. 統合実習をとおして、看護専門職者としての自己の目標を明確にすることができる 			

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	南大阪看護専門学校
設置者名	社会医療法人 景岳会

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
看護専門課程	看護学科	夜・通信	79 単位 (2580 時間)	98 単位 (3060 時間)	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校 HP (http://www.minamiosaka-kango.com) に掲載予定 (2020 (令和2) 年1月~2月)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	南大阪看護専門学校
設置者名	社会医療法人 景岳会

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	学校関係者評価委員会
役割	<p>学校関係者評価委員会【※】（委員長）は、自己評価委員会（南大阪看護専門学校に籍を置く教職員5人以内を委員（委員長：副学校長）として設置）の自己評価結果ほかに基づき、学校関係者評価委員会による評価をまとめ、教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めている。</p> <p>※「南大阪看護専門学校 学校評価実施規程」に基づき設置 委員会構成（学校長委嘱）〔規程第12条第1項〕：関連業界等関係者4名、卒業生1名、地域代表1名、その他学校長が必要と認める者 委員任期〔規程第12条第2項〕：2年（再任を妨げない） 評価の活用〔規程第16条〕：委員長は評価の結果を活用し、教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない</p>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
南大阪病院 副院長	2018(平成30)年 4月1日 ～	非常勤講師〔病理生理学Ⅰ〕 2010(平成22)年11月～現在
南大阪病院 看護部長		非常勤講師〔看護管理〕 2010(平成22)年6月～現在
社会医療法人景岳会 本部部長	2020(令和2)年 3月31日	
社会福祉法人白寿会 職員	※「南大阪看護専門学校 学校評価実施規程」第12条（関係者委員会の構成）第2項において、“委員の任期は2年、再任は妨げない”と規定	外部非常勤講師 ※①～③参照
南大阪看護専門学校 卒業生		非常勤講師〔基礎看護技術論Ⅰ〕 2013(平成25)年5月～現在
地域代表		
(備考) 全6名とも本校・学校関係者評価委員会設置時（2016(平成28)年11月）からの委員である。		

- ※① [在宅看護方法論Ⅱ] 2011(平成23)年10月～2013(平成25)年3月
 ※② [老年看護学方法論Ⅱ] 2013(平成25)年4月～2016(平成28)年3月
 ※③ [老年看護学方法論Ⅰ] 2016(平成28)年4月～現在

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	南大阪看護専門学校
設置者名	社会医療法人 景岳会

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年8月までに次年度の授業計画を作成し、実習施設への依頼を行っている。また、12月に授業計画(シラバス)を作成している。</p> <p>授業計画(シラバス)の外部への公表は、本申請時点では行っていないが、2020(令和2)年度授業計画(シラバス)については、2020(令和2)年1月または2月に掲載予定。</p> <p>成績の評価については、本校「学則」第21条(単位の認定)をはじめ、「学則施行細則」第4章学習評価・卒業(第10条(成績の評価)、第11条(入学前の既習単位の認定)、第12条(卒業の認定))、「履修規程※」に基づき評価(A;100~80点、B;79~70点、C;69~60点、D;59点以下)を行い、単位認定(C以上)、卒業認定を行っている。</p> <p>なお、「学則」、「学則施行細則」、「履修規程」は『学生便覧』に掲載し、全学生に配布。</p> <p>※「履修規程」(下記3章構成)において、細部を規定</p> <p>第1章 科目単位の修得:第2条(科目認定の条件)、第3条(試験の時期)、第4条(試験の方法)、第5条(試験時間)、第6条(不正行為の禁止)、第7条(科目の学習成績評価)、第8条(再試験)、第9条(追試験)、第10条(単位認定試験の評価及び単位の認定)、第11条(再履修)</p> <p>第2章 臨地実習単位の修得について:第12条(臨地実習の先修条件)、第13条(臨地実習評価の対象)、第14条(臨地実習評価の方法)、第15条(再実習、補習実習について)、第16条(臨地実習の評価及び単位の認定)、第17条(再履修)</p> <p>第3章 学習の評価:第18条(学習の評価)</p>	
授業計画の公表方法	本校HP(http://www.minamiosaka-kango.com)に掲載予定(2020(令和2)年1月~2月)
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>まず、各学年ともに年度初めに「目標管理表」を用いて学生自身に目標を設定させることにより、学年担任(主・副)が個々の学生の年度当初における学修意欲を把握している。また、教科外活動においてはレポート提出やアンケートを取ることで、取組み状況や課題を把握し、これらについて教務会議において報告・情報共有している。</p> <p>そのうえで、各科目の学修状況や試験結果等を基に学年担任(主・副)が定期的に学生と面談を行い、それぞれの達成状況を確認するほか、個々の学生に適した指導を行っている。さらに学年担任(主・副)のほか、その他の専任教員、教務主任も関与して、適宜個々の学生の学修意欲が高まるようアドバイスを行うなど努めている。</p> <p>また、成績の評価については上段“1”に記載のとおり、学修成果の評価を厳格かつ適正に行っている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>							
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>科目単位の成績評価は、「履修規程」第7条(科目の学習成績評価)、第8条(再試験)に基づき、60点以上を合格とし、60点未満は再試験を実施している(満点は1単位毎に100点)。</p> <p>また、臨地実習単位の成績評価は、同「規程」第14条(臨地実習評価の方法)、第15条(再実習、補習実習について)に基づき、60点以上を合格とし、60点未満は再実習を行っている(再実習の合格は60点と評価している)。</p> <p>それぞれの学年次における単位数と評価は次のとおり。</p> <table border="1"> <tr> <td>1年次</td> <td>41単位、41教科の平均点</td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td>37単位、34教科の平均点</td> </tr> <tr> <td>3年次</td> <td>20単位、12教科の平均点</td> </tr> </table> <p>なお、2019(令和元)年より成績管理システム(パッケージソフト)を導入したことにより、GPA指標に移行予定。</p>		1年次	41単位、41教科の平均点	2年次	37単位、34教科の平均点	3年次	20単位、12教科の平均点
1年次	41単位、41教科の平均点						
2年次	37単位、34教科の平均点						
3年次	20単位、12教科の平均点						
客観的な指標の算出方法の公表方法	本校HP(http://www.minamiosaka-kango.com)に掲載予定(2020(令和2)年1月~2月)						
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>							
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>「学則」第23条(卒業)による卒業認定は、「学則施行細則」第12条(卒業の認定)に基づき、「学則」第9条(授業科目・単位数・時間数)に規定する“別表1 授業科目及び単位数・時間数”に定める各学年時毎の授業科目を履修し、98単位を修得した者について、卒業認定対象学生それぞれの成績評価および出席状況等を“卒業審査会議”に諮ったうえで、学校長が行っている。</p> <p>なお、欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超える学生については、卒業を認めていない(「学則施行細則」第12条第3項で規定)。</p>							
卒業の認定に関する方針の公表方法	本校HP(http://www.minamiosaka-kango.com)に掲載予定(2019(令和元)年9月ごろ)						

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	南大阪看護専門学校
設置者名	社会医療法人 景岳会

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	社会医療法人景岳会 HP (http://www.minamiosaka.com/)
収支計算書又は損益計算書	社会医療法人景岳会 HP (http://www.minamiosaka.com/)
財産目録	社会医療法人景岳会 HP (http://www.minamiosaka.com/)
事業報告書	社会医療法人景岳会 HP (http://www.minamiosaka.com/)
監事による監査報告（書）	社会医療法人景岳会 HP (http://www.minamiosaka.com/)

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		看護専門課程	看護学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3060 単位時間 /98 単位	2025 単位時間 /75 単位	単位時間 /単位	1035 単位時間 /23 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		121人	0人	8人	50人	58人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の5つの分野に分かれ、基礎分野を土台として積上げている。1年次より臨地実習を採り入れ、効果的に積上げていく授業計画を立てている。
成績評価の基準・方法
（概要） 科目単位認定試験の受験資格は、当該科目の所定授業時間数の、臨地実習評価の対象は、当該実習科目の所定時間数のそれぞれ3分の2以上の出席要件を満たした者とし、両科目ともに60点以上を合格とする。60点未満の場合は、それぞれ再試験、再評価を受けることができる。なお、評価者は、科目認定試験については当該科目担当講師が、臨地実習については当該実習担当教員が、「履修規程」に基づき評価する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 上述の成績評価および出席日数（時間数）が、「学則」「学則施行細則」「履修規程」で定められた進級または卒業単位数を修得しているかを確認し、進級については成績審査会において、卒業については卒業審査会議において判定し、それぞれ認定している。
学修支援等
（概要） 担任制を設けて専任教員を配置し、クラス運営を行うとともに、個々の学生の学修意欲（モチベーション）を向上・維持させるため、定期的あるいは適宜実施する面談・指導により、当該学生の個人目標達成を企図している。また、看護師国家試験対策として1年次より担当教員によるサポートを実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
29人 (100.0%)	0人 (0.0%)	29人 (100.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) 南大阪病院、岸和田徳洲会病院、愛染橋病院、日本生命病院、浅香山病院ほか			
(就職指導内容) 3年次4月に実施する“進路アンケート”に基づき、個別面接を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 近年の看護師国家試験においては90～100%の合格率（直近の第108回・看護師国家試験では卒業生全員が合格）であり、看護師資格を取得している（なお卒業時には全員に“専門士”の称号が与えられる）。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
111人	8人	7.2%
(中途退学の主な理由) ①学業不良による単位取得困難、②傷病等による学業継続困難など		
(中退防止・中退者支援のための取組) ①実習評価の見直し、②副担任による年間サポート、③適宜面接・指導を実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
看護専門学科	250,000 円	450,000 円	100,000 円	管理実習費 100,000 円
修学支援 (任意記載事項)				
社会医療法人景岳会による「奨学金制度」を設け、経済的理由による修学困難な学生を支援している。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校 HP (http://www.minamiosaka-kango.com) に掲載。PDF でダウンロード・ハードプリント可能		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者評価委員会【※】(委員長) は、自己評価委員会 (南大阪看護専門学校に籍を置く教職員 5 人以内を委員 (委員長: 副学校長) として設置) の自己評価結果ほかに基づき、学校関係者評価委員会による評価をまとめ、教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努める。 ※「南大阪看護専門学校 学校評価実施規程」に基づき設置 委員会構成 (学校長委嘱) [規程第 12 条第 1 項]: 関連業界等関係者 4 名、卒業生 1 名、地域代表 1 名、その他学校長が必要と認める者 委員任期 [規程第 12 条第 2 項]: 2 年 (再任を妨げない) 評価の活用 [規程第 16 条]: 委員長は評価の結果を活用し、教育活動および学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
南大阪病院 副院長	2018(平成 30)年 4 月 1 日	病院関係者
南大阪病院 看護部長	~	病院関係者
社会医療法人景岳会 本部部長	2020(令和 2)年 3 月 31 日	医療法人関係者
社会福祉法人白寿会 職員	※「南大阪看護専門学校 学校評価実施規程」第 12 条 (関係者委員会の構成) 第 2 項において、“委員の任期は 2 年、再任は妨げない” と規定	介護施設関係者
南大阪看護専門学校 卒業生		卒業生
個人商店 経営者		地域代表
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校 HP (http://www.minamiosaka-kango.com) に掲載。PDF でダウンロード・ハードプリント可能		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校 HP (http://www.minamiosaka-kango.com) 「やさしく見る・やさしく護る スペシャリストの道 (学校案内パンフレット)」、「募集要項」 刊行物の入手は電話 (06-6658-1210) または HP (http://www.minamiosaka-kango.com) から申込み
--